



まほでし・につき③

～5がつ・6がつ まとめつ～

謡犬 ヌネ

「まほでし・につき」の、ひとびと



☆ルメさん…

へっぽこすつとこな

魔法使い

魔法ハウス作りが夢

☆ダイモさん…

ルメさんの師匠

黒豆似

☆カオンくん…

気弱風味の獣人君

☆ヒュドールさん…

水や氷を想い嘆くめらんこりつく蛇巨人

☆ゲンマさん…

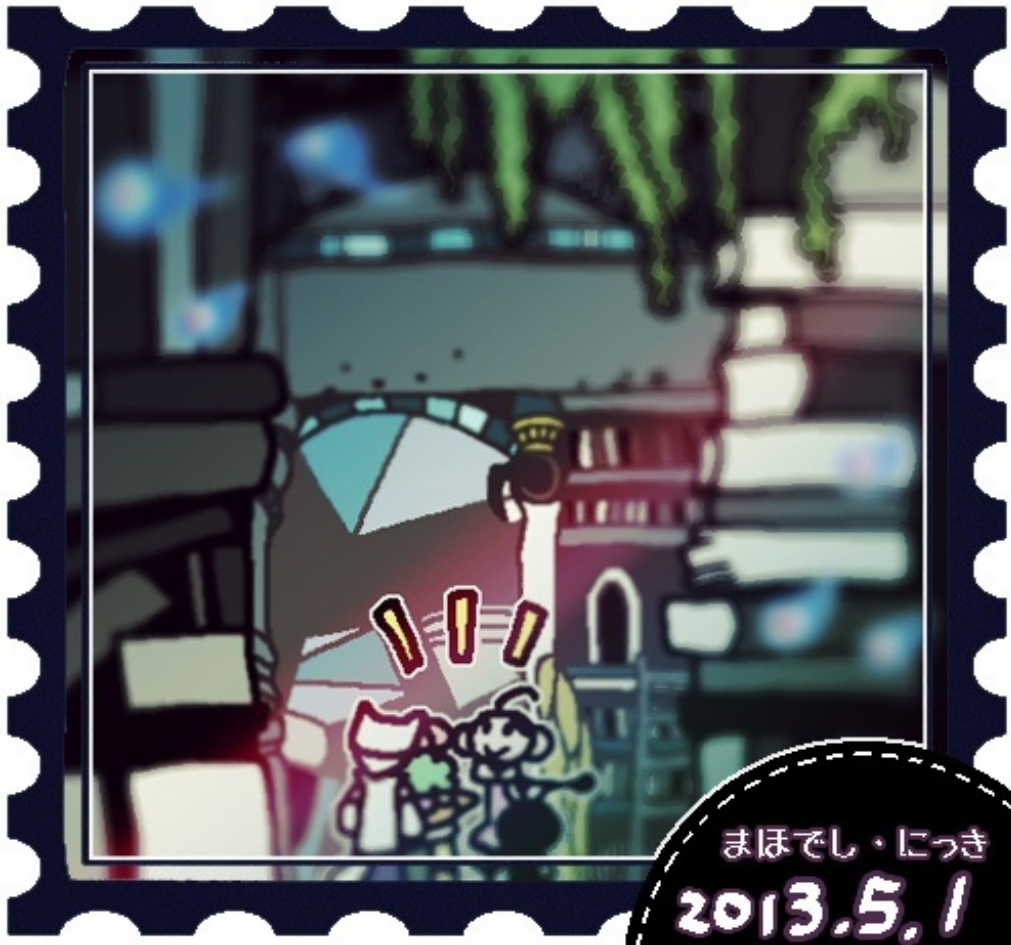
ヒュドールさんの弟子

ナナメうえに独自ゆるい語り方をする

そんなこんなで、

特訓かいしっ!





めらんこりっく蛇巨人・ヒュドールさんの水の楼閣の中には、打ち捨てられた記憶の奇書たちがさまよいたどり着く図書館があります。

”皆伝魔法使いへの学びに、この たましいなる本の宮をくぐってくるのも励みとなろう”

と許可してもらい、魔法特訓&授業を兼ねて知のとつとこ お勉強くえすと、はじめます！

(めんばー)

・ルメ (ワッ) ・カオン君 ・ダイモさん ・ゲンマさん

(ご注意)

- ・空間が自由に融合、分離しているので、元の道にはもどれません
- ・記憶の奇書から何がでてくるかわかりません
- ・かつては新人魔法使いの初めて試練ダンジョン空間でした。色々魔法を試してみましょう
- ・同行する師匠さんがたは、一時的に魔法が封じられます

小さな説明書きにヒョッと！



楼閣図書館には本の分類ごとに様々なエリアがあって、学ぶ人数分のエリアをまわります。

ワッ達ちーむはでし3人・師匠ひとりなので、エリアは3つ

長いか短いかは、学ぶ人のアハ！次第 らしきですだ。

それじゃあ、これかな の3様はっ

- ・ゲンマさん→ヨヨ世界の水と魔法について、もちっとくわしくっ
- ・カオンくん→獣人についての未知のいろいろ、もっと知りたいです
- ・ルメ（ワッ）→魔女さん・魔法使いさんのことを学んで、ここで新を編み出そうっ

それではさっそく、しばしの旅へっ！



頁のかさなった通路を通り、厚い表紙をくぐり...
そのうちに、巨大な黒い本が立てかけられた 広間に出ました。

そこで行くくると舞う、赤い飾りの葉が一枚

どうやらガイドさんで、私たちはこれから巨大な本の中へ入っていくらしき

それぞれ名乗り、転送の準備

するとガイドさんは2枚にわかれ、1枚は監督役兼じーぴーえす係になりました。

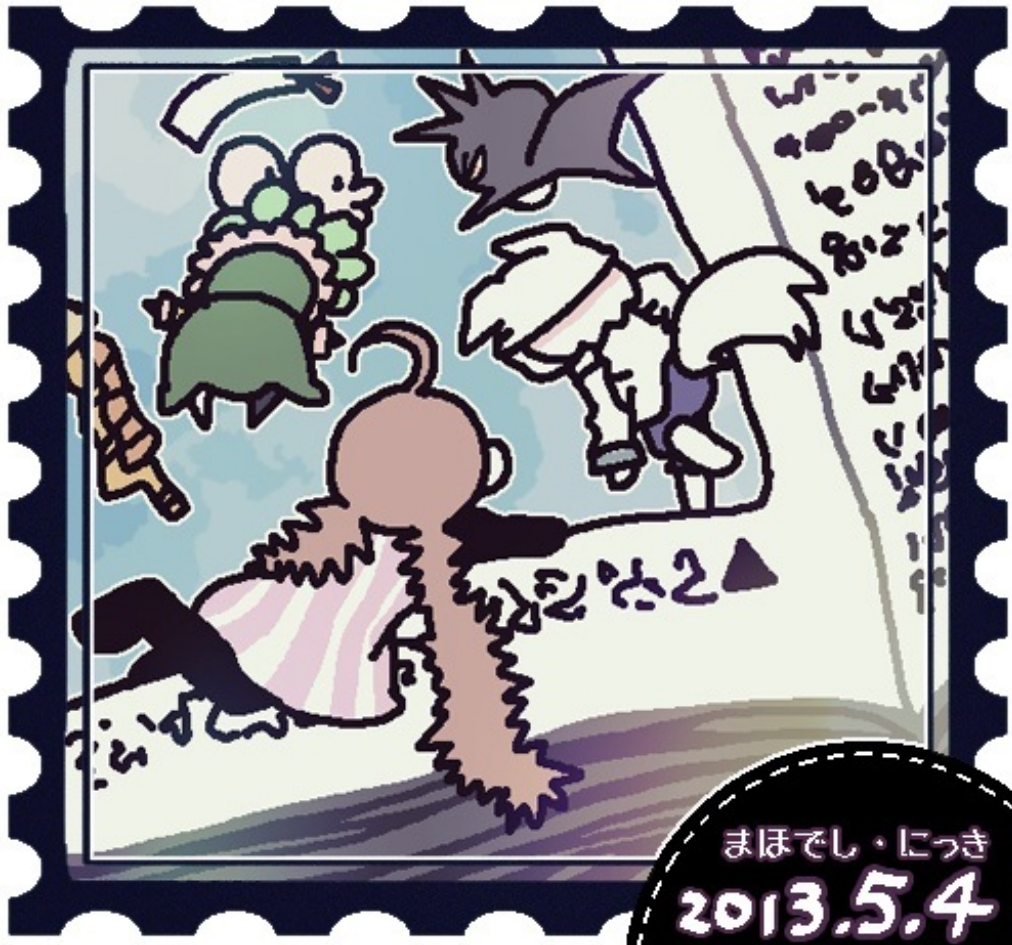
そして「水の項」・「獣人の項」・「魔法使いの項」を設定、本についている金の錠を開封...

”尚、中デ 関連スル ナゾトキガ アリマス

正解ナラ次へ 不正解デモ ドコカへ デハ、イザ”

はさみこさん（即席名前）...

ドコカって、どこっ？



魔法図書宮にて、がいど役の葉、”はさみこさん”

設定・準備完了デス ソノ挿絵ノ枠カラオ入リクダサイ とのことっ

ダイモ師匠はでえいっと、カオンくんはワワしつつも さらっと、

ゲンマさんはわっは〜と、myほうきは すい〜と

はさみこさんはくるりんと、ワッはよっこらどっこら...

それぞれよっこらしょっと挿絵の窓をとおり、いよいよ魔法授業だんじょんへっ

おおっ水のにおい？と、あおい光が満ちてきたっ



魔法の本にはいったら、部屋中 なみなみとゆれる あおい光で満ちていました。

ひんやり空気に 二の腕をわささ〜っとする私たちの周りを、水の玉が通り過ぎます。

床は、四角い闇越しの窓と、色んな説明文？が書かれています。

「まるから始まる が、 みな まるいかたち ではない」

「見えずともこまかくあらく たちのぼり 高くに見ゆるは雲 中にあっては霧」

「かたくひめる くうきもどうぶつも 何万年の 隔てであっても」

「わたしはみず とりいれる はいしゅつする さいぼうをみたす」

「ちいさきうみ ろか ちゃ ね つき かいがら かいけい または、うた」

水をより学びたかったゲンマさん、びびっと3つの浮遊物を見つけました。
それは、常温・高温・低温で変化した、ひとつのおなじもの

じっちゃん、にいさん、こどもの3つの声がかさなり、問いを出します。

”我ら みつのかげにて あるが 原初たる ほしまにありしみづ どれあらむや？
そうなりと思ふかけ 手にふれたまへ”

かげはすがた、ほしまは宇宙だね...うう～む
しかしずいぶん、ふしぎなお話のしかただなあ

と考えるそばから、ゲンマさんがたたたたた～っと

おおっ、3つがびゅんびゅん とびまわりはじめたっ！



3つの変化形のうち、ゲンマさんは液体状態にぴょーんととびつきました。

”答えは「水」ですに〜っ「最初の水はドレ」っていう問いだったから〜っ”

こらこら、問いぬしさんの3分の1を手の根から吸収しないっ

”理由すなわち 「未だたれも見ず」 なれど 答へ 合ひたり
よろし 道は続かむ”

おや、いつのまにか 青い壁の一角に通路がっ

○ ○ ○

次に現れたのは、ジオラマのやうな空間でした。

山から川がでて、流れて海へ その間に町があり、
青白の縞のパイプの先の金の獅子のあたまが 町に絶えず恩恵の潤いを降らす...

扉候補は見えますが、まだ新聞を張ったような質感です。ここも、アレなのねっ

”この町は見ての通り、私がくみ上げて降らす恩恵をうけてくらしている

しかし見えている景色・量以外の水も多く扱う なれど、成りし後には見えぬ

その、見えぬ水とは何か？魔法を用いて再現してごらん”

ギギギと獅子の頭が恩恵をちょこっと止めてこちらを向き、問いを出してきました。

”わはっそりやもう ちみゃふいでふみ〜”

など言うのを皆でチョットマッターっしつつ、考えます。（地下水は 汲んだら見えるよっ）

なんで見えない、のか？が、みそだなあ...



獅子の蛇口さんの問いには、皆で商船のみに劇をして回答しました。

私が建物型の箱から船をかたちづくり、海に置いて町へ向かわせました。

町ではゲンマさんが船のつみにをどんどこおろしています。

カオンくんは、つみにの説明っ

”たべもの・のみもの、雑貨、衣服、動植物など...

それら（の材料）を別の地で作ったり育てたり するのに、使う水”

あらら、町からちっちゃい人がワイワイできたっ

”見えない水というのは、そのことかなあ と...”

そわりそわりとこたえたら、微笑みがわりに吠える獅子さん 扉を開いてくれました。

つぎの空間は、巨大な生活雑貨がどでんと積み重なって広がっています。

お皿をぼんぼんとびこえ、お風呂を泡に乗りそろそろ進み、コップの前にたどり着くと...

”こにちはぷる

わたし 見てのとおり 泡がだすきぷる

だすき泡 使て いばい なにやら作てぷらさ

数おじて 道作るぷるる”

ストローさん、泡をふきつつ問題を出してくれました。

泡でつくるもの...どんながあるかな？



泡が大好きすとりーさんからの問題は、ふいっしんぐの いれぐい状態で回答しました。

(答えつつ造形魔法できる人はそれで、変身できる人は変身で)

- ・ルメ→ケーキ、ケイク、お茶にかぶちーの、どれっしんぐ、パン、えすぷーま、炭酸飲料...
- ・ゲンマさん→へちまスポンジ（石鹸付）、やとろふぁ・くるかす、パールグラス...
- ・カオンくん→かえるさんエッグ、かにさん、アワフキムシ、すとりまとらいと、水中不完全菌...

※ダイモカは「発泡スチロールだこら！」と、はさみこさんは「水槽ノブクブク ガ アルジャーナイ！」とそれぞれ皆で回答っ

なにやら だんだんカオスになってきたけんども、大丈夫かなっ

ストローさんはもぐもぐしたり、うかべたり うっとりしたようなお顔

”泡いぱい かわいね～

ありがとみなさん、次のくかん あちだよ～ぷくぷく...”

ぴきっとしたうでをゆるゆる振ると、大きな泡が出現。

細長い大小せんたくめいつをくぐり、またすとりーさんに手を振り、次の空間へっ

○ ○ ○

虹色しゃぼんをとおりぬけると、さんごのひろがる海の底の風景でした。

ただ、皆アトラクションの人形さんずのやうな素材で、出来ています。

足元のさんごの奥から、水色のデバスズメダイさんが、お仲間と代わる代わるひっそり設問

”むこうに、さめさんみたいな形のハウスがあるでしょう？

あそこまで、たべられないようにいってみてね

水属のいろんなちえぶくろをつかうと、いいかもね

じっじゃあ気をつけてねっ ひゃあ～～っ”

おお、こんどは活動型問題なのねっ

水属さんの知恵って どんなのあるかな？



海生物のいきる知恵空間では、それぞれファイトしました。

(メモ)

- ・ イカスミは逃げるじぶんの身代わりとして、タコスミは煙幕がわり
ダイモ師匠の頭から出たのは、どんなスミかな？
- ・ カオンくん、イカさんのやうに体色変化することに成功（じぶんでギョーッと）
- ・ さんごのすきまは、入り組んでいて大きな魚がはいってこない
いそぎん隠れは、いそぎんちゃくサにしびれ毒があるから（隠れる方には耐性？）

ああしかし 皆からまっちゃってしばらく出られずっ

- ・ 海の草や海藻は、たまごスポット&ここも隠れすぽっと&ねむり処
おや、ゲンマさんも寝とる...
- ・ 我がもしゃもしゃ髪のをちょっと発光させることに成功 深海の捕食さんがた、びっくりっ

・はさみこさんは捕食者さんの姿を紙に映し出したり、無数の分身を出現させるなど
擬態能力すんごいっ

そんなこんなで、からがらさめへっど型の扉館へっ...

とくいわざ、習得までタイヘンだったろうなぁ&今後も進化していくのやも

○ ○ ○

次の空間には、ファンタジーおなじみの不思議水棲ずが、からふる・ぎっしり！

多分「〜づくし」的に挿絵がかかっているのねっ

”あなたたち魔法使いは、ときとして私たちを呼び出して、その能力を借りる事があります
それなら、そのものの名と 持っている不思議なちから 解していなければいけません

それでは問います

描かれた我々の中で、あなたがたが次の空間へとゆける可能性をちからと秘める者は？”

私たちはいつの間にか、プランクトンの姿になっていました。

こ、これはなんともっ

一同は、ココの中でお名前を確認してゆくことにしました。



(昨日の絵空間の水モノさんがた、めも 左上から)

- ・虹蛇 原初の水大蛇 水底の闇色の体をせつながら、世界中の色を飲み込みました
- ・人魚 おもに海棲 まれに淡水棲 美しい歌で惑わしたり、夢見たり、涙の真珠を連ねたり
- ・蜃 竜の一種とも、大ハマグリとも 濃い霧や雲を吐き、幻の景色をその中につくります
- ・首長竜 サメの噛み跡残る化石も 今もいるかな？いないかな？
- ・大クラゲ コロ世界では、湿気の多い空気中も漂います 深海にも浅い海にも生息
- ・ヴォジャノーイ 変身上手、豪華な水中宮殿のヌシ 水車の下に住んでいる？
- ・河童 川にも、まれに海にも お猿似説、亀サ似説 不思議で美しい歌 きゅうり&お相撲
- ・リュウグウノツカイ 絵ではおでこだけ しらたき という別名も

最初このなかで次の空間へ運んでくれる力をもつのは、蜃さん・虹蛇さん・ツカイさん？
と一同なやんでおったのですが、ふと思いました。

魔力のたくさん・ちょこっとの差はあれど、どのオカタもはずれじゃないのかな とっ

問いをだしてくれた人魚さんのいうとおり、呼ぶなら呼ぶだけの知識やコトもだいじ
かけかた次第で、本当にとんでもなくなる魔法もあるので

それに加えて、どんなときでも・どんなお呼びめいつさんともファイッしていけるとんちどころも
また、ひとつかな？

なかなかうまくでけんモノだけでもっ

”僕、どうしても広くは苦手です...””はよせな餌ですに～”とアワアワする皆をひんやり飴でなだめつつ
、答えを決めました。

”こたえは、本当の島浮かぶ・本当の海にいつてみたいオカタ みんなです！”

なないろのファンタジック水属めいつさんがたは、おおいに賑わいつつ箱空間をつきぬけ、本当
には行けない「本物の海」の景色を作り出し、ほうぼうへ泳ぎ去って行きました。

○ ○ ○

行きたいながら行けない 絵の水属さんたちの 夢の浜辺のすなのうえ

島ほどもある巨大魚が船のやうに横切るのをながめつつ、ゲンマさん ぽつり

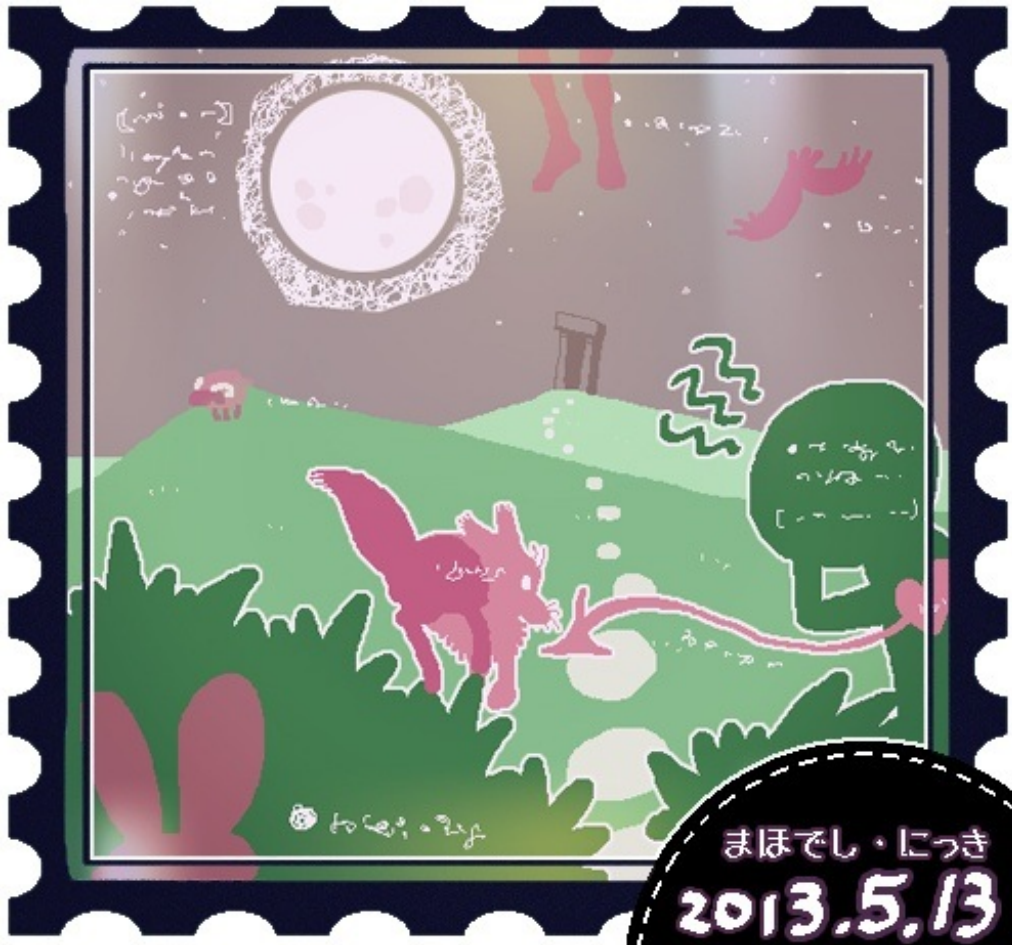
”じめんに植わるまえに、ワガハイきつとカッコイイ船で大冒険するんですに～

そして、同じ種族の皆に コトバを忘れるまで いや忘れても 話し続けるっちゃぶる

モチのロン、あなたがたのこともネッ”

ニカッと笑う植物人さん、なんだかたつくましいねっ

さあ、お次はカオンくんの、獣人さん頁のエリアかなっ？



浜辺空間で光りつつ様々なぼーずをとるゲンマさんをよっこら運びつつ、野原の景色に着きました。

ここからは、「獣人さんを学ぼう」の頁空間なのねっ

早速、草なびくどこから、問いの声が響きます。

”獣人 種類さまざま 大きく 1 に人に変ずるけもの 2 にけものに変ずる人 3 に融合した姿

これの原因 さらに大きく 5 つを記した札 扉の前 あつめて全て答えよ”

声と同時に、プレートらしきものをくわえたアニマルさんがたが、クモの子猛だっしゅ！

夜目もきかないし、どうしよう... するとっ

”首長鳥サが「病」、ギンギツネサが「術」、微光蝙蝠サが「薬」、2本角の馬サが「失」、羽魚サが「素」のふだ...かぁ

僕がだいたい捕まえるから、ルメさんたちは捕まえやすいのからおねがいしますねっ”

そう言うと、カオンくんは風を残して走り去っていました。

まだコロの中での精霊さんが怖くて自在に変身、は無理ときいていたけど、なんかすごい！
モウ半分のじぶんサと、うまく何やらタッグできたのかなっ？

+ 5つの札の原因って、なんだろうな？



けもかけっこ空間、私たちが蝙蝠さんを まってーしとる間に、草だらけのカオンくんが文字札を持って合流しました。

札は5枚集まったけども、理由は どんなものかなっ？

一同、う〜んと考えて、扉の前でそれぞれに答えました。

”獣人になる理由、5つは...

「術」は、術者が魔法を使って変身 「薬」は、特別な薬草などを使って変身

「失」は、上2つで別の効果を得ようとして失敗し変身した場合

「病」は、疾患で変身してしまう現象 「素」は、もとよりその能力で生き抜いてきたモノ達

以上です”

しばらくざわざわと動物の息や鳴き声が気配としておおっていた後、絵のやうだった扉が本物の石に変わり、次の空間へ繋がりました。

よし次の空間だ一っと走っていくめいつの最後尾を、振り向き振り向きカオンくん

”みんな どうしてるかなあ”

そういへば、ごかぞく20にん以上だったねっ

○ ○ ○

次の空間は、人形のあたまの中？から見たやうな空間です。

大きな動物が空間全体をみわたしていて、中央にはカラフル小さな人形たちが4人います。
赤い一人はばたどた、青の一人は説明中、黄色の一人はねむたげ、緑の一人は思案中

あの大きな動物、前カオンくんにきいたローホさんに 似てるかな？

”赤は鋭い歯を、青はほっそりした指を
黄はその毛並みと髭を 緑はその細大を 思うその身のうち

双眼の窓のないがいを かいま見 聴き ひびかせ ひろげ しずみ 思い つなぎ

私たちはとある獣人として よわを行く

さてその獣人 何の動物か？”

問いを出すと、でっかいさんは顔の向きを戻して つぶつぶ何かを朗じています。

変わっているアニマル、なんだろな？



コロ内部的な空間の問い、3回まで不正解がOKらしきです。

”アリクイさんっ” x、歯がなかったかなっ
”ピラニアさんっ” x、ああっほっそりした手 忘れてたっ
”ディノニクスさんっ” x、え ちっちゃい生物？

うう～ん、歯が鋭くて、手足がほっそり、小さい... あれっ

”答えはねずみさんっ” やっと正解しました！

意外なところにもそういへば、のアニマルぽいんつ、いろいろっ
自主的に動物あてっこくいずしつっ、次の頁空間へ

次の空間に入ったとたん、私たちは姿が変わってしまいました。

”3つ それぞれ 変身にまつわる生き物
工夫し それを 体現してください

それぞれのときに使って良い魔法は、1種類ずつです

姿は3つが回答成ったとき 戻るでしょう”

ゲンマさんが カエルサ、カオンくんは、くまむしサ、ワタシは蛾サ...

ようし、いろいろ想像・れっつ変身！



(変身空間 あれこれ)

【Q.変わってしまった3種類のいきものが変身することを、表してみませう】

(それぞれ魔法は1回まで使用可)

【Aその1】蛾(ワタ)→たまご出現の魔法を自分にかけて、誕生～みに期～さなぎ～成虫期をえんじましたっ

(古代の寒冷期がこの変身の起源で、しっかり成長・ふんばり まっちゃんぐのための変身らしきっ)

【Aその2】カエルサ(ゲンマさん)→えんじおわった蛾姿を丸呑みっ⇒あたまのおたまに後足が生まれました

(水棲おたま⇒陸棲かえる変化は、すみかをおわれ新天地へ、の太古の進化のしるしなのねっ)

【A その3】 くまむしヲ（カオンくん）→オート火加減の魔法をとってもとってもぬるめで発動
→しばらくして、くりぷとびおしす というタル型の姿に変身

（そうできる種類は、乾燥・温度・圧力・ほうしゃせん・うちゅう線に耐えるさうです）

けっこうハードなくいず回答でしたが、なんとか正解できましたっ
いきもの、すんごい！

○ ○ ○

次の空間では、色んな獣人さんがたが宇宙の星々のやうに浮遊してらっさいました。

”やあやあ、ふんばってるかい？”

な、なんかフランクな黒犬姿のおにいさんがっ

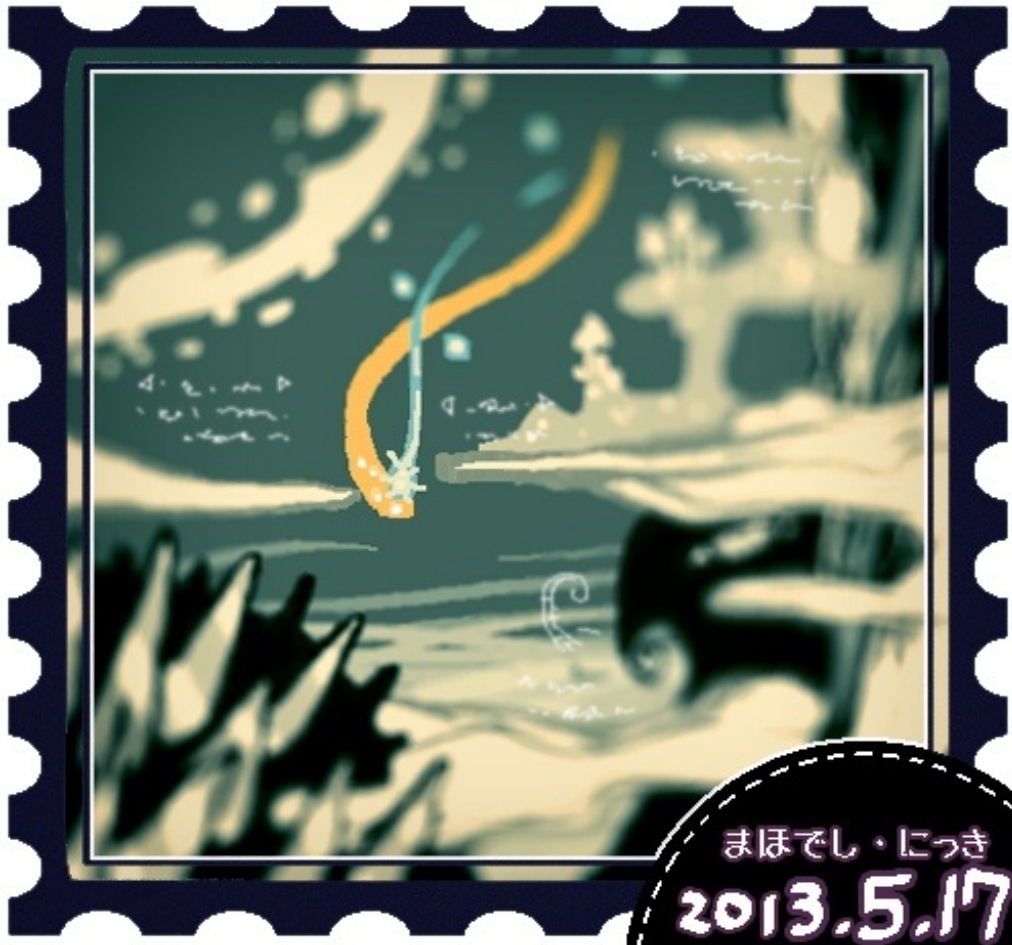
”さあ、早速問題だ

空間を見渡してごらん、いろんな獣人ちなみのものたちがいるね

では、その色々に共通するものは何かな？

獣人たちにいろいろ聞いて、私に魔法か変身でひとりずつアピールしたまへ”

いろんな姿や ちからを持っていて、いろんな伝説がのこっている 獣人さんたち
その共通項って、なんだろう？



（獣人さん いっぱい空間、一同かいとう ろぐ）

Q. いろいろいる獣人さんたち、共通すること、なんだろう？

A. カオンくん →”ええっと...ひとのやうで、ひとじゃない かな...わぁ上手く言えない...”

からだのたて半分人間、もう半分为熊？らっこ？的な動物に変わっていました

A. ルメ（ワタシ） →”大昔からいらさるという事かな？里にもそういう絵の古い毛織物がっ”

思い出の毛織物（オサの家の壁にかかっていた）のミニチュアを少時間出現させました

A. ゲンマさん →”皆が深山幽谷遺跡海城島など、わけいりエリアにおすまいですに！”

あたまをお山に見立てて、往年のゆーふぉー！のやうにニョキッと手から怪獣のやうなお花でこっ

細身長身の黒犬さんは真っ赤な目を細めて、いぬひげをなぜつつ思案中

”ん〜、中々つぼ突いてるじゃない　なあダイモくん”

3本の触覚をピリリーッとさせて衝撃うけとるダイモ師匠　あらお知り合い？

”まあ、コタエはひとつではないんだな

魔法使いたるもの、見聴きできておるモノのみがすべてだと思ふなかれ

闇は原初たる畏れとして、幽玄として、または やすらぎの眠りとして
常に傍らにあるのだから

てなこって、きみたちお次へ またこんど〜”

ハハハと手を振る黒犬さん、名を聞く前にぶらっくあうと してゆきました。

○ ○ ○

次の空間は、立方体の内部じゅうに映像が映し出されていました。

ほのぐらく 広い荒野に、いがいがの木や巨大な竜の背でできた山、谷...
ここ　もしかしたらだけでも、”魔域”かな？

ここでは問いをだすオカタがいなかったので、ワタたちが師匠にきいてみました。

獣人さんのこと、先ほどのお知り合いらしき黒犬さんのこと、魔域時代のお話　など

(きいたこと　メモ)

・ さっきの黒犬さんは 知る者が色んな名、または犬先生と呼ぶ大魔法使い

・ダイモ師匠はお若いときにばとるを挑んで、あっさりふっとばされたらしい

・獣人さん→原始の人々が動物の姿や能力（人々にはできない）をみて、
こういうこと出来たらいいな、すごいなっ、お守りにしたいな、等思ったり

未知のふしぎとご対面してビクッラこいて、（きっとこれ、こういうしくみなんだ）とおもったり、おそわったり

そのうちに あっちにもこっちにも 不思議の住人がおるのが 見えていったのかなっ

獣人さんたちサイドは、どんなかんじだったのかな？

・カオンくんは、変身はヲット楽しいけど、

大技で変わったら戻れないかも、コトの精霊さんに勝てそうな気しない、内部のべつのカオンくんには いいから俺に代われっとなっつかれる

ゆえに、１００％振り切ってかわれない らしき

なんでも、旅中の街でとっても悲しい気持ちになった折に怒涛の変身をやらしかけたらしく、それがトラウマになっておるとか

べつのカオンくんは、どういうオカタかなっ

・尻尾があると早く走れるけど、感情まるわかりで僕はなんだか恥ずかしいよ、らしきっ

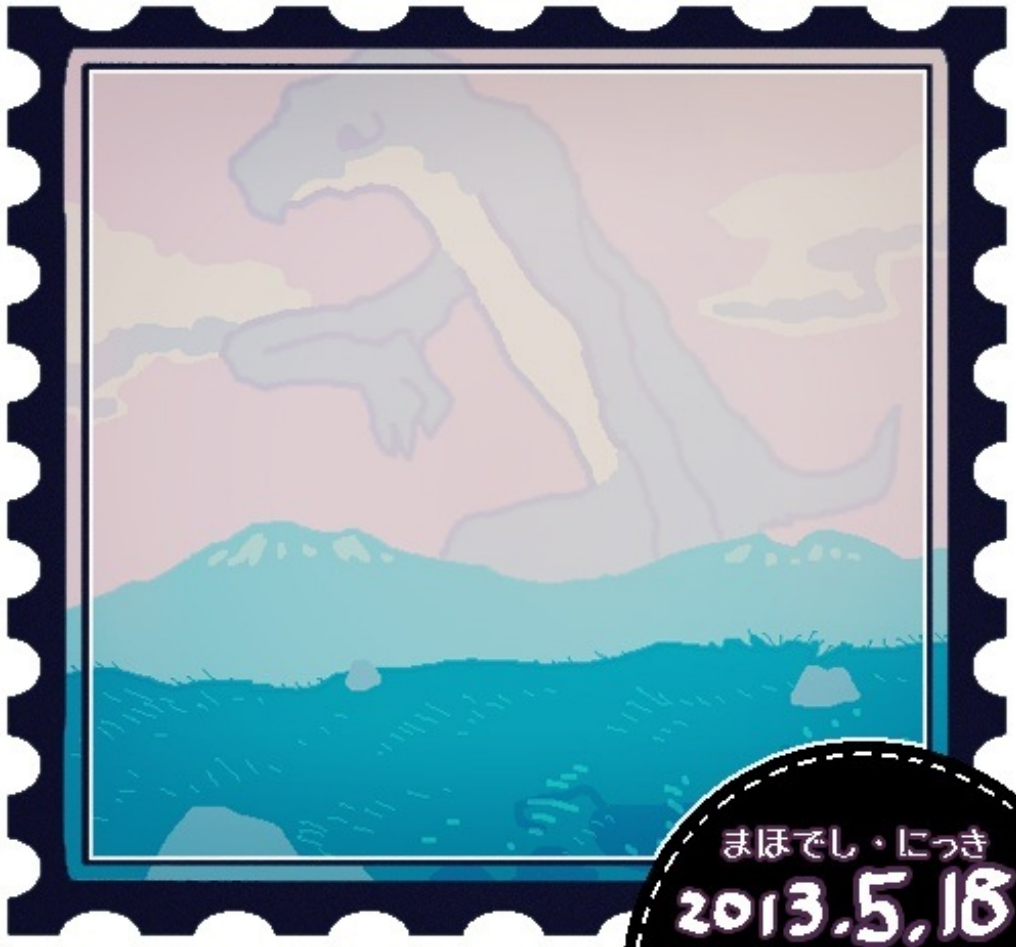
・ゲンマさんは常にけものみみと尻尾つけたいさうです

いろいろきいたり、そういうこともあるんだね～ したり

魔域スクリーンされた空間でこんなに和んじゃっていいのかなっ...

でも、なんだかいろいろ おおっしました！

あれ、闇の中の雲のさき、出口な入り口 でてきたか？



朝の陽がいまにも照らさんとしておるやうな、さわさわしたところに出ました。
草がなみなみ きらっと揺れていて、まるで湖や海のやうです。

淡い色のけしきのなか、雲よりたかい 巨とかげ人さんが ゆったり のび〜っ

つられて一同、ごろんごろんっと

”ああ〜っこの草と土の香りッず〜っと嗅いでられますに〜っ”
と大地にウツトリすりすりしている、ゲンマさん

”こんんなにだだ〜っと広々な景色初めてだなあ”
ワッも、しばしのすう〜っじかん

”弟子ども、ここ獣人の頁空間だぞう あんまり気を ゆるまれろな...ふがぁ”
珍しくダイモ師匠 うたたねです。

”皆サン、ヒト休ミ シタラ、問イノ探索 シマショウネ”
はさみこさんも、紙のからだにそよ風がすいすい吹いて りらっくすっ
ねいきをたてるmyハウキに、ちょこんと座っています。

おや、カオンくん いない？

おやおやと思い転がりながら探したら、離れたところでゆっ...くり立ち上がる巨とかげ人さんを
眺めていました。

モウ一人のカオンくんどうしとる？と聞いたら、黒い草原のうえ すくっと立っていると
そうしつつローホさんと対峙している といいました。

”今まで僕はブランに、たくさんかなしいときの気持ちを頼りすぎてた
変身しているときのことも覚えていないし

ずっとそういうふうひに ひとの世界も・ココにれんめんと宿る獣人の魂なる精霊も、あまり見過ぎな
いやうに歩いてきたんだ

きれいなだけじゃなくて、怖いものも沢山あると知ってから

でも、それだけじゃ ないんだよね

これからは、ちゃんと見て思って、歩いていきたいナ
ブランも、ローホさんも、世界やお師匠さん達、でしのひとたちも

いきっていて いつキーフォがくるか わからないものだから...って、アワワッ！”

我に返ったカオンくん、慌てて駆けていきました。みごとな全速力だよっ

よ、ようしって あるいていく

その途中に、いろいろいっぱい

にてひで・ひでになる？道 だいじなこと見出しつつ だいじなこと忘れずつつ いこうっ

おいしい魔法ごはん たっくさん作っちゃういねっ

それに、おふこーすmy空飛ぶ魔法ハウスだってね！

いつかでしず・師匠ず それぞれだけずつの日々が来るんだヵとぴりっとしつつ、
こんどはワッの、魔法使いさんを改めて学ぼうっ な頁空間開始です。

※につきについしんーカオンくん内のべつのひと、ブランさんというんだなあ～



水も、獣人さん...ときて、魔法使いさんの頁空間に来ました。

今は個性的な魔法使いさんがいっぱい出てきて、オリジナル技 披露しています。

ワッは基本の延長線上を学習っしとる段階で、まだフレキシブル応用まで行かんのですだがつ

”魔法は 未知が みえること

今は昔 科学のはいはい

それじゃあ、問いますよ

「飲めばたちまち変身に治癒、飛行もかなう 不思議薬」

「湯や透石浮かべる水のみこみ 時止める 小塔」

「壺のなかには 見渡す限りの別天地」

おや、このなかに、魔法使いでなくとも 使えるものがあるね
子も大人も おてのもの

さあ、それがなにか 答えておくれ...”

いひひ...と低めでなんだかお茶目な まだむ のお声がします。

鍋によさげなきのこに、不思議な石や種に、天井の杖から降る泡や光に、雲に...

そんないろいろに四方八方包まれた真空間で、一同只今考え中っ



魔法もいろいろ の頁空間、珍しくワタはすぐにぴきーんとひらめきました。

”透き石は氷で、小塔はかたち 湯や冷たいお水などをたっぷり注いで
時を止める（温度そのまんま？）ときたら、

こたえは、ふたつめ・魔法瓶っ”

さいきん魔法商店街でみた というのもありますが...ともかく、あたったどっ

○ ○ ○

次の空間では、でっかい魔具がふわ～と浮遊しておりました。

”ルメ、あんたは主にホウキをつかう子ね

ゲンマ、あんたは自身がすでに薬草のやうなものだし、水も扱う

カオン、あんたはいろんなかけらを、いわばココの宝玉にやどしているのだから、よくある水晶玉から何か見るのとは、逆の作用だね

何もなくていきなり魔法出すぞびびび〜とやるのも、一寸掴みにくくて難しいの

だから私たち魔法使いは、特別な効果を持つという色々を使って 編み出してきた

さあ、それじゃあよ〜く見上げて
見慣れた道具の中で、めずらしい石臼があるでしょう
今ではそう使える・使う人も多くはないのだけど...

ずばり、どうやって使うのかな？
特別に3人にも使えるやうにしてあるから、実践してみてちょうだいね”

ごうんごうんいいながら、長めの石臼さんが降りてきました。
足元でみると、サイズはちゃんとにんげんが使うくらい大きさ

ゆらゆらしとる石臼さんの すりすり以外の魔法的使い道、どんなかな？



道具もいろいろ、の頁空間の問いは、“長めの石臼 すりすり以外の魔法的使い道は？”

ゲンマさんは“何やら ブィーンとすごい風 できるかなってね！”と、取っ手をぐるぐる

カオンくんは、石臼さんにあっちこっち飛び回ってもらい、4足走行だっしゅで捕獲せんとしています

たしかに魔法使いの体力づくりって課題なんだなあ...でっでもゴツンしたらタイヘンだっ

ワツは見た途端 椅子みたいだなあと思ったのですが、何やら どうにも ちがうかな？

“こたえは... 音をきいて魔法気分をたかめるっ だと思えますっ”

ふしぎなお声のみのまだむさんは、あらあらと

”ルメや、あんた惜しかったわね 答えは椅子みたいにして移動する だったんだよ”

アチャーッ

”有名な魔女さんが使っていたのを、昔真似したりしてたのね

モトモトは、長い木の臼 それを突く棒でトントンとせかすと、底をずりながら進むの

それで着いたおうちは、がいこつだらけで・鶏の足をして・ぐるぐるまわっている...”

ここまで聞いて、私はでんせつの冬魔女さん・バーバ・ヤガーさんのことを思い出しました。
働いていたお屋敷でのしつけのスパイスとして使われていたけど、本当はどうだったのかなっ

”いっぱい思って いっぱい「本当」や「そうでないもの」を知っておいで
その先でまた であうことになるうから”

突然、黒い布が顔をなでました。何処からともなく、猛吹雪と北風がっ
皆の音がどんどん遠ざかり、ついたのは...

○ ○ ○

眼が覚めたら、新たな頁空間は 魔法使いさんまつりっ
古今東西、いろんな装束のひとが壁から出たり入ったり、歩いています。

でも、他のめいつがないっ

勇気をだして古今東西さんがたに すみません、と声をかけたら、
おもいきりの古代語、異種族語、異国のことばがっ

そのなかに、コトバのつうじる奇術師さんがたが紛れていました。

”ぼくらは、えそらも語るけど、いい？”

あ、えっと、はいっ仲間の行方のお話、おねがいしますっ

赤タイの奇術師 ”その人たちなら、”僕の持つハトがお気に入りかもねっ”

青タイの奇術師 ”その人たちなら、雪にうもれているかもねっ”

黄タイの奇術師 ”その人たちなら、この空間を歩いてないかもねっ”

”配列が変わってしまう前に、ぐっどらっく！おぜうさん”

色、かたち、意味...

アワワッ、ゲンマさん・カオンくん・師匠に はさみこさん まっててねっ



どうぐもいろいろ空間で不正解し、しゅるいもいろいろ空間では、ワッひとりではぐれためいつ回収しております。

古今東西魔法使いさんの群集に、3人まじった 言語は通じるけど”うそも語る”奇術師さんたち

それぞれのいうことは、人物の位置に関わっているのねっ

でもあわわ、人々が動いてしまう...

とっさにすみません、エイヤッとフットストップの魔法をかけました。

(この魔法は、鍋をかけているときにピンポン来た、ときに便利っ)

うごきストップ可の一定時間の中で、仲間を見分けなくてはっ

・ハトがお気に入り？

奇術師さんのハトの近くにいるかも、ということかな？

でも、うう〜ん いるのは茶色のフードさんと、黒いとんがりぼうさん...

・ここをあるいていない？

あれ、そうっていた黄色の蝶タイの子、いなくなってる？

期待で黄タイ なんつって って思ったのにア

・赤、黄の子 ちがったなあ 残りは青の子の雪に埋まっているかも？というもの。

雪は多分、「白い色」 では、うまってるって、どうしたかいな？

白、しろ...と人々を見分けていきますが、白帽子に白しゃつ、白い袖に白リボン、銀白の髪と色々で...あわわ、魔法がそろそろ、きれてしまうっ

白にうまる、白い色が多めに覆っている人々の隙間にぜひぜひ すべりこんだら、あららっ

これは...わんこのぬいぐるみと、鉢植えと、黒豆と、１００年ビンテージの栞？

”は～い、おめでたう～！”

いつのまにか、黄タイの奇術師さん と、拍手をする古今東西さまがたっ

仲間さんがた、姿がもどってもまるくなって眠っていたり・ほわぁあと大あくびしたり

”はいっでは、この空間はこれにて

皆さん、よ～くこの帽子の中をご覧くださいねっ

いきますよ １・２・３！”

○ ○ ○

２ぐらいから声がぼわわんと聞こえだし、起きたときにはどこかのテラスに揃っていました。
うぞうぞと立ち上がり、手をかけてその外を見るとっ

見渡す限り、上も下もなく素敵な魔法使いハウスが合体していました。

谷の家、水の家、森の家、動物みたいな家に箱みたいな家、橋の家に発光する家に地中の家...

しばらくわぁ〜っと見渡し、うほぉ〜いっと なんだか不思議なため息鼻息だしつつ、ほうきに飛び乗りました。

まだ眠い皆を連結して、ほうき発進っ

どうしてその素材や形？どういう魔法を組んで、どれくらいで建てたの？維持はどんなかな？

くっついて広がる、浮遊するおうちたちに沢山質問して、答えをもらって、ぼんやりこんとしていたmy飛行魔法ハウスのイメージがしかつとしてきました。

なるほど、全部イチからでなく、飛行ハウスには気の合う空中浮遊島が最適なのねっ！

いろいろ、めもりまくりだっ



すみかもいろいろ空間で、魔法使いの家集合体さんにお話をききつつ小路をゆくと
その先に今いる頁空間がありました。

小高い荒野は、巨大な黒いヴェールの横顔
懐かしいやうな旋律で、古い子守唄のさなか

3つの廃墟を渡る風も、いっしょに演奏するやうに吹き抜けていきます。

手前に木の小屋、その奥に塔、最奥には華やかだったであろうお城

”うまれいでてからいのちつきるまでは、それぞれのじかん
古くはその、うまれと死の時をむすび、はこび

しぜんのうごきをつぶさにみつめ 伝え
みえずおそれるもののすがたをえがき

きらきらと ごうごうと いきるなかまたちのため

おおぜいがよろこべば けんじゃ と
しだいに ほころべば まじょ と

そのうち まがいものも現れて
魔法より誰でも使える利器がでて

わたしたちは、かけらずつの伝説になった

だけでも魔法はすきだから、わたしたちはまだ
どこかで魔法使い やってるってわけさ

さて、問いを出そうね

この3つのうちのなかに、3人の魔法使いがいるよ

小屋には、コッポ暖かい魔法使い

塔には、鍛錬好きの魔法使い

城には、知恵に満ちた魔法使い

伝説そして、ちょっとアクのある冒険仲間たち

かれらから教えてもらったものをくみあわせて、頂上でみせてごらん

それは、あんたの新たな魔法になろう”

○ ○ ○

(魔法使いさんがたと、ことば)

- ・ 小屋にいた、まるくてしましまの動物
ハワしきりに、コップと小さな棚をぐいぐいとつ

・ 塔にいた まっする魔法使いさん

”なぁに、まよわずきけよ、きけばワカルさーっ！”とっ

・ お城にいた白薔薇の魔法使い？さん

”井蛙（せいあ）の見で良ければひとつ…

それが出来れば素敵かもしれない

でも、それによりあなたは悲しいかもしれない

それでも行くのなら、そのとう じゅんぐりに

集中して魔法 お忘れなきやう…”

え～っと、あれしてそれして……んん～？



あ、どうも カオンです。

3人の魔法使いにまつわる問いの答え、あれかな、それかなと話しつつ、頂上に到着です。

黒地に白い線で、草がしょうしょうと風になびいている以外に、あまり音がありません。

”さあてルメ、それにゲンマ、カオン

魔法を披露するひとは、背筋をぴんとして、魔法に負けないように集中よ

見守る子は、かける前にはいろいろアイデアを交換してあげて
集中するときは、心のこえでエールを送ってね

はいっ、では コタエを発表してみよう”

発表とか、僕苦手だったなあ...ハワツしつつ、はらいのけつつ、一同こたえを改めて考えます。

コップの使い方をへっぽこ空想したり、素敵かつ悲しいかもってなにかな？したり
「きく」とは？ぎろんしたり、メモした言葉の順番を組み替えたり...

（ルメさんは3つの建物で聞いたことばを、しっかりメモしていました）

そうしてあった、とうのじゅんぐり

3人？の魔法使いさんの言葉とハワツをあわせると、「ハなせ（話せ？）」になりました。

○ ○ ○

そこでルメさん、眼を閉じてぐう〜っと集中して、ゆっくり眼をあけました。

とたんにコップや木箱が浮かび上がって、くるくる回ったり、ピヨンと飛び上がったり
ルメさん、おじさんみたいな満開の爆笑お顔 してるなあ

うう〜、がんばれっ！（僕がいうまえに、もうがんばってらっしゃるけどっ）
皆もしっかり、色んな思いで魔法発表を見守ります。

”ワッへはっ どふでしょう あっでますかっ？”

ルメさんが問うと、声だけの魔女さん？も、たのしげにかんらからとお笑いになりました。

数分後、は〜い当たりよ、みんな学びのダンジョン、お疲れ様ね！とっ

”今回のあんたたちは、種族もばらばらなのによくがんばったねえ

せかいには知らないことや、こわいことなど 太古から変化しつつ、ずっとある

ときとしてそれが涙や刃に なっちゃったりする

けど、それが全てじゃない どれも誰も全てじゃないの 限りは有るけどね

いっぱい思って、いっぱいそのときの本当に触れて、反省したり突き進んだり

たくさん、魔法しておいで

それで全てが解決じゃないけど、覚えた魔法は糧にも道にもなる

魔法は、それぞれxあいであでふくれあがる、千変万化のｺｺの粒なのよ”

うっほお〜い！って、ルメさん吠えてる

僕も早く、なんとかしたい

ブランに泣き付くのも・惑ってｺｺにとじこめるでもなく、ローホを怖がってままならないのもなく、
新しい僕へとなくなっていくために

うあぁ尻尾が勝手にぶんぶん振れとるっ

ということで、頁空間 それぞれ名残の散策をして 下宿に帰ります。



魔法学習ダンジョンをもっそりクリアし、只今頁空間で改めてようしっ補充&探求中です。

魔法使いの「ほ」の途中ぐらいのワッ、課題はどっさり山っ

これからは、底力up+ひらめきや知識の引き出しをめきめき増やさないとっ

ということで、ヨヨ世界で一番引き出しの数の多いところ の頁空間に来ました。

アンドリーゲンというその星の中全てが、無限にも思える引き出しで出来ているさうです。

よし、ワッの空飛ぶ魔法ハウスにも、一室つくるだっ

引き出して一ぶるに、引き出しべっどに、引き出しお菓子入れに、引き出しランプに...

...なんだかココに、べつの引き出しが増加しはじめたやうなっ



学習ダンジョンをぬけてた、まほでし一行+α

きょうはゲンマさんのリクエストで、不思議植物各種の図説の庭を散策中です。

”ああ、これはホークベルですに～

若いときは鳥の半身をしていて、いい土の島に埋まって鈴なりの花がつきますじゃ

東洋の古いおうちの壁などに、たま～に描かれておりますですよっ

この木はバーナクル・ツリー

貝そっくりの実が海に落ちると、中から水鳥ポンっという珍種でありますよ～

それにホラ、この辺りのは全部 有名なマンドラゴラの亜種たち！

似たやうで少しずつ違うんですよね、かなきり声のニュアンスが.....”

ぴょんぴょこワクワク、ゲンマさん

植物人研究者ゴコが、きらきらとバーニンしておるやうです。

次々トンでもなく素早く正確に図鑑絵レベルのすけっちを集中ざくざく中に、

白い羽毛恐竜さんとであいました。

”おや、ソノレ・トロバドウルとは珍しい”

この学名は、ゲンマさんの種族とのことっ

”いやあ、実に まーべらす な庭園ですに～！お世話はおひとりで？”

”ええ、近い頁にわが種族の項目がありまして、散歩がてらですな

...そういえば、近種のソノレ・サルタトウルの方々は いかがです？

大層減っているとここには記されたままで 心配でねえ.....”

夜にかがやく青いお花を咲かせる、みなみのしま育ちさんがた らしきです。

ゲンマさんは、キョトン

かなり希少な種らしく、かれも知らなかったやうで、もうれつにメモしております。

つちに植わる前に 旅して見たい景色、またひとつふえたねっ

ワッもいつか、飛行はうすで見に行きたいものだナァ～



学習ダンジョンをぬけでた、まほでし一行+α

きょうはカオンくんのリクエストで、平原のどうぶつ各種の頁空間に来ました。

じらふさんも、やぎさんやはげたかさんも、夕焼けを見てるなあ

”昼と夜の気温差が激しいところは、みんな夕陽にあたるんだ
もうひとあったまりして、寒さや危険の来る夜にそなえるために

でも皆で今日はこうだった、とか 今日はいこうしよう とか話す時間でも、あったなあ

僕らは家族みんな主に変身する動物が違ったから、交代の確認も兼ねて”

ぼくははじっこで、眠るにいさんねえさんの頭置きになってたけど とっ

さっそくこいぬ化して、かおにもおなかにも夕陽をあびる、カオンくん

こんなに、あったかかったんだなあ〜と、改めて

ひょおっと時折冷たい風が吹きぬけるので、よけいに

まほでし3者+ダイモ師匠（はさみこさんは本物の夕焼けを見たことがないらしき）

いろんな記憶の中の夕陽が、平原の夕陽とひろがり、とけあっています。

5月30日



蛇巨人ヒュドールさんの楼閣にある図書宮での、まほでし学習ダンジョン

そことも、しばし？のおわかれです。

”悲シクナド アリマセンワ

皆サン素敵ナ魔法使イニ ナッテネ ...ウッ”

紙のからだをぷるぷるさせとる案内役・はさみこさんに一人一人ごあいさつし、
皆で手を振ります。

だんだん視界がわやんわやんしてきて、光やら闇やらそれ以外の色が ぼやけてきて...

気づくと、楼閣の石の床の上でした。ほおお～ひんやりっ

何やらワタたち 眼が覚めるのがゆっくりだったらしく、師匠はその間あったかぬくもり光を発して
いてくれました。

”いやぁ～効きますナァ～ですにぃ～”

”あ、ひひょう あういがろう もざいまふ...くあぁ～っ”

”はぁ～あったかいっ 砂湯みたいだね！私、ええ～っとおのお”

弟子ども、もへもへはいいから さっさと特訓だぞこら！とダイモさん
ずっと魔法が封じられていたのもあり、全速力のうおおおっで駆けて行きました。

師匠にヒュドールさん、ありがとうございますっ
でっでも特訓は、ダンジョン分の遅れてくる筋肉痛をまじかる治癒した後がいいナァ～...！

まほでしーにっき
5月のまとめ

言霊
コネ

はさみこさん

一園集のガイドさん兼
魔法の本の部員のメンバー
がどきどきしています。



ハフ
アノ方達
チャント戻レタ
カシラ...?



コロモ
シバラク静カニ
ナルワ...
別ニイケド

か
13P

お
お
お





なんだか眠れず、飛行さんぽに出ました。

魔法使いのカン アンテナに何か、ビリリっと

濃い紫色の厚い布で覆ったような空に、幻灯の星々がぐるぐる まわりながら映っています。

季節は違うのですがバルボノースという、里のお祭りを思い出します。

じめっと気象にさそわれて這い出てきたお化けさんがたを色とりどりの灯りや音楽で誘い、広場の魔法のかがりの光と煙でしずめる、はこぶ&春さん到来しとくれっ儀式

その周辺の期間、割とヘンなできごとが日常な里に、更に奇妙な事がいろいろ起こるのです。

奇妙なものの影がさ迷い、一本道は何十本にもなり、先程まで無かったはずの建物が出たり...

いつなんどき・どんな形のお化けがでるか分からなくて、今じゃナゼ？というものにもハワワッしてたア〜

ようし、きょうの朝ごはんタイムには蜂蜜じゅーす飲まなくちゃっ



ドコカのなにかの不思議を感知しているここちが、まだ続いています。

それは、その不思議がはっしんされている素を、みていないからなのかもしれません。

今日は、カオンくんは魔法特訓 お休みらしき。

ちょっとなごりとしたお声&ドアの隙間から出てた 鋭い爪

ん～、なんかそういう不調かな？ 獣人さん特有の

なんだろうなあと思いつつ思う間取りを空中に形作る の練習をするのですが、
2つが混ざって あにまるハウスになってしまったりっ

”またかルメ...あのなあ、魔法をかけるときは、魔法素とよく話すっ

カオンはカオンで、獣人の力にのまれるでなく、備えるための道なんだから

おまえさんも、飛行ハウスを魔法生成して 何かしたいことがあるんだろう？”

んん？

なんだかそこで思考が数秒止まり、再生成していたハウス模型はふくらむ壺になっていました。

おい、あぶないあぶない！と言われて気づき、おもわずでっかい飴に変換っ

すみません！といいつつ飴を砕いてせっせと包んでいるワッの横で、小さな考える人型になっているダイモさんでした。

ようしっとぐぐーっと瞬発集中し、つぎに出たのは藻でできたまほでし下宿の模型...？

おいしい！と はもりつつ食材を味噌汁化っ

それにしてもアワ、考え回廊のなかにエエット、が またひとつっ



今日もねこんでおるらしき、カオンくん

ごはんもあまり食べたくないらしく、持って行ったトレイの水&おにぎり1／3個のみおなかinしたようです。

（「ありがとう」とメモ 食べ残った味噌汁&おにぎり2個はぶっかけで食しました）

獣人さんが本格的にお力を備えるのには、いろんな段階があるんだなあ

せめてゲンキのでるものをさし入れしてそうっとしておこうと、ゲンマさんトワツで魔法薬をどろろんしています。

ああでも、ワツたちだけではどうもすとおっぴんぐ役が足りないっ

ダイモ師匠も2人では心配なやうで、泡とか色とか変化をよ〜く見な、魔法薬は出来るとちょっと光るから と つきっきりっ

うそがつけない、おこるのもにがて、じぶんをいちばんちいさく考える
落ち着いていて、ほのぼの そんな、カオンくん

そのそと そのなか

ワタチたちからこうしてくれなんていわないし、かつ・まけるだけで できてない

もう一人のカオンくんやコトの精霊さんとたくさんお話して、よしってなったら

でしず・師匠ずでゆるゆる また お散歩しよう

そのためのどろろん大鍋魔法薬、色が... ちょっと、味見してみっかいな？



最近、具合が良くないらしく 魔法特訓をお休みしているカオンくん

ゲンキのつく魔法薬ができたので、届けて来ました。

でっでもけっこう 色も香りもすごいなあ...ぐえっふ大丈夫だろかつ

”あ、おはよう

なんだか、色んなものを入れて煮込んだ墨汁から抽出した砂糖 みたいなにおいが...”

お、いつの間にかドアにミニ扉がついてるっ

そこからでしずで作った魔法薬を渡し、用法用量&ちょろっとだけお話をしました。

”うわあ、アリガトウ

こういうのもらって飲むの、はじめてだよ

今はちょっとルメさんたちに危険だからここで色々試しているけど、じきにね”

ごっくんごっくんと飲む音と、柑橘系くらいサッパリしていておいしいね～とのお声
そ、そうなんだっ

あれ、でもカオンくん ちょっとほよ～んと ねぼけとるのかな？
あの魔法薬 そんなに一気に飲みしたら……

と思った瞬間

どっふお～んっと、すんごいいきおいの星型のちりや、オレンジ色のもっくもく
かすかに見える何かの動物の影が、もうれつダッシュで去っていく

たてもものも水草も な～んとも
けれどもワタたちは思わぬ衝撃でふっとび、カオンくんの姿は どこかへきえていました。



湖底の水草原で魔法薬のてんまつをダイモ師匠にお話したら、珍しくゴラァッとなりませんでした。

”ルメいいかい、この石 ナンダと思う？”

ダイモさんは、ごつつんがつつんででっこぼこの黒い石を持って見せました。
ん～、こういうの、火山でできるって習ったかァ、はるかむかしに...

”おまえは、そう思った もちろん食わんよな

でも、俺にとっては石炭と並ぶ香ばし甘～い オヤツなのだっ”

マシュマロきゃっちでぽいっとがりんごりん ㇿーうめえなぁもう しております。

黒砂糖とか そんな感じかな？

魔法もいろいろなら、魔族さんも いろいろねえ～

”ニンゲンどうしですら似ていつつも全然違ったりもする

種族が違えば、尚更さ

それはそうそうカチあうもんじゃない

しかしソレをおしながして、物事はすぐに「奔流」になる”

ワタシはだんだん、不安になってきてしまいました。

うち飼いのカラス、すー太くんがいつとき帰ってこなくなったのを思い出して

ああそれはイカン、まっまずああして、つぎにあっちいって、こっちをこうして...

”ほんとうは だれのための、あれこれだい？”

あれでこれでしっぽで...えっ？

ダイモさんはくるっと背をむけ、歩いていきました。

俺も一緒にさがすけどな、とっ

けどな に、いっぱいの意味をみた気がしました。

辻斬りメガホンにも・操る手にも操り人形にも・パズルのうめまちがいにもならないやうに

一個ずつをだいにしつつ、1個だけにさいなまれぬやうに

ワタの内部の色んなまるっころ達、しっかりふんばっていこうねっ



きょうは、いい波間日和です。

光がちろちら もーっ と やわらかく照っているし、その上は白雲湧くきらっとした初夏の空
雨の時期に、こんなにおてんき

でも、ともだちは何かの動物に変身して ドコカへ行ってしまったまま

きれいだなあ

まちがったなあ

水草の大きいのが ゆれてるなあ

魔法ハウス、でけるかなあ

いまは静かにじっくり考えたいたいむ

ぜってい つくるよっ ワタシの道よっ

すぎたるはおよばざるがごとして、今かつ

この景色、立映機があれば手元に残せるのに

あの音楽が、いまの水の色にあいさう

里の人たち、もうごはんどきだなあ

ワタシのココロのつぶつぶたち、色々なにやら てんでに言っております。

魔法のこと、これまでのこと、でしずやお師匠・先生ず、飛行ハウスのことや、そのあとの魔法
関連のお仕事のこと

かんがえながら、夜が明けました。

でもひとつ、わかった

もしカオンくんいても、まずやわらかいあいさつだけ、しやう

お話 きこう 話したいことばのぶんだけ

ひとによるけど、魔法使いにも じゅみょう そのなかでのはっけんいろいろに、
改めてふしぎだなあ しつつ、ほうきで湖底をゆきます。

そらへ かのやうな はるかなとおぼえ、いま少しだけ きこえましたっ



カオンくんどこいったかな？とほうき飛行していたら、突然未知のひとに会いました。

お食事後でせうか、お顔にちょっと うろこがっ

んん？ あれっ う〜んと...？

このひと、誰かに似ているやうな...

黒尻尾さんもビックリしたのか、じっとしてこちらの様子を伺っています。

ほおお、珊瑚石みたいに真っ赤な眼だなあ

カオンくんの眼は、トルコ石みたいな青色だったっけ

そうそう、トルコ石って、トルコ産じゃなくって

...じゃないよ、そうだこのひと カオンくん似なんだっ

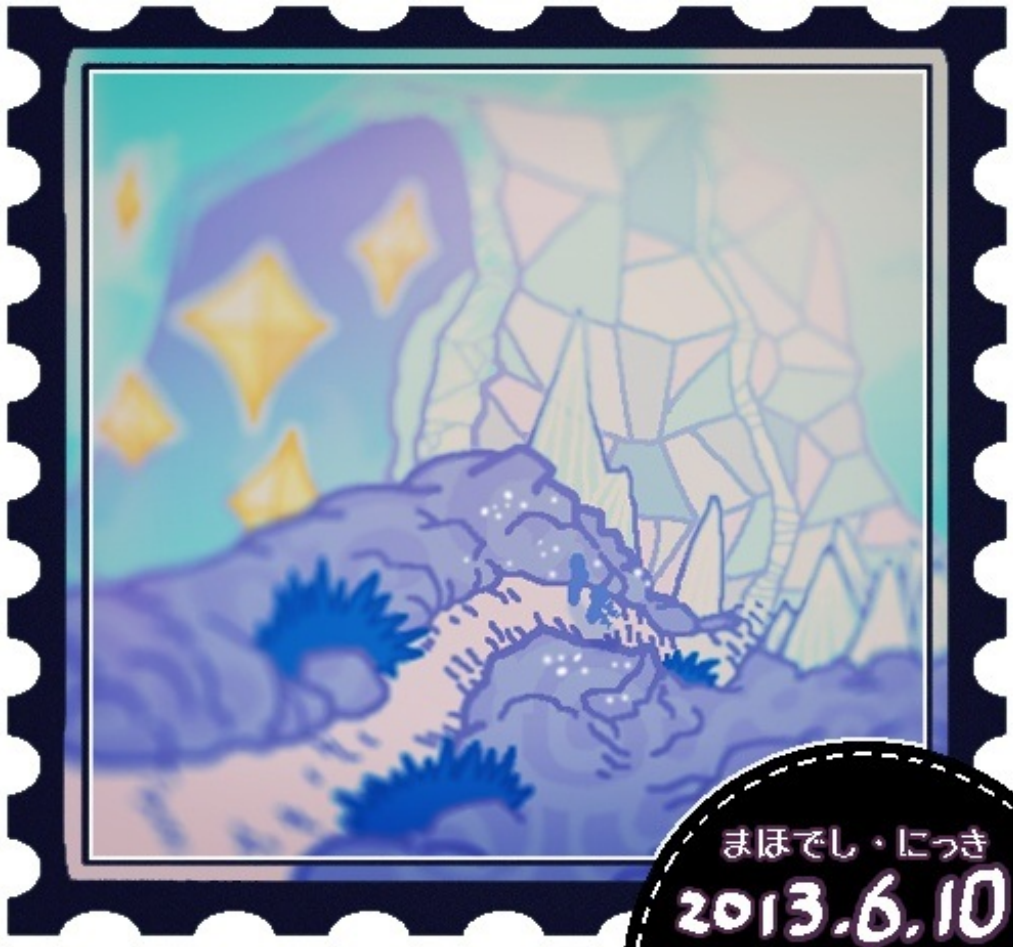
ぐぐっと意を決して、ワタはルメです、あなたはカオンくんをしっていますか？と質問っ

”カオン 今眠っている”

それだけ言うと、黒尻尾さんは身軽に岩を飛び越えつつ見る見るうちに青い遠景に駆け去りました。

ぼ う ぜ ん ...

ハっいかんっせめて一言だけでもーっ！



なぜか どこを通ったのか分からないままに、いま全く知らない道に来ています。

何処までも行ってみたいやうな、どこかから奇妙なものがぬばあっと出て来さうな...

そこに、ｽｯと真っ黒い耳帽子と尻尾&赤い眼の人が、立って待っていました。

”言い忘れた、私はブラン

カオン 信じられるか 君がじぶんで 見ろといった
だから みきわめる”

おお、カオンくん、たのんでくれてたのね どこかでっ
しばし、じいじい〜っと、変な顔にしない にらめっこです。

(ワタシ若干視線恐怖ぎみなのですが、このひとの眼はなんだか　ずい〜っと見られます
...わんこっぽいから　かな?)

”ルメとやら　私は狼の魂の獣人だ　わんこ違う”

あ、これが狼獣人さんあるあるなのねっ！とじいっしつつ　それぞれの思い　かつてに交錯っ

じいっタイム終わり、う〜ん？といいつつ　ブランさんは歩き出しました。
首をかしげつつ、黒毛並みのぼそぼそ尻尾をゆっくり振って

でも、カオンくんは、どこかな？

ブランさんと並んでほうきで飛びつつ、質問応答を　いろいろ

自分たちのやうな獣人に会ったことはあるか、とか、どういう認識をしているか　とか、
まほでし旅のすっこ経緯とか

このオカタ、すんごくお仲間思いなんだなあ〜と、ひしひしと感じます。

でもその思いの強さの奥には、なにかどお〜んと深い影の淵が　うっすらみえるのです。

その淵、カオンくんにも　ときおり見えたもの

このオカタたち系統の獣人さんがたに、何があったのか

それって魔法使いである私たちが聞かれても、やっぱりポンとは　言いにくいことだなあ

(ワタシの場合、もっと旅修行してきてからだよ　と言われておるのだけどっ)

ぐおごごごぐえっ

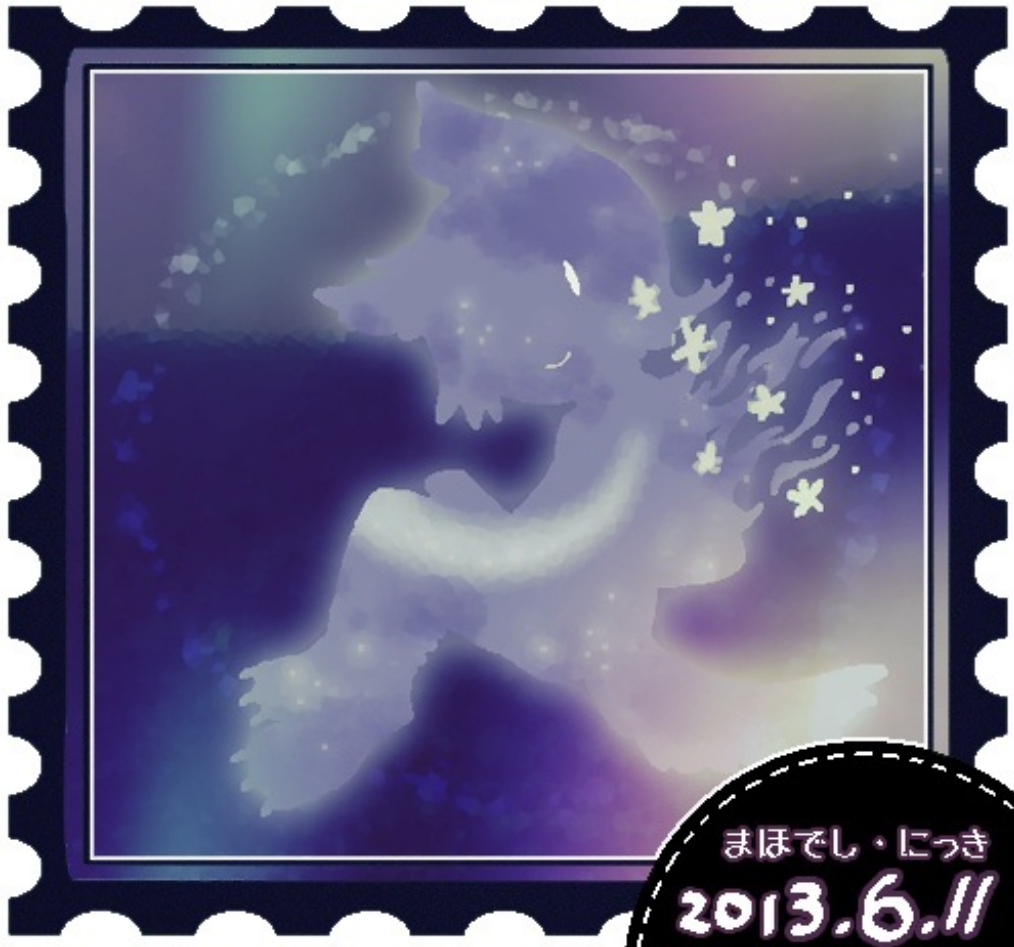
ハッとして低い体勢で構える、ブランさん
ドスのきいたうなりごえに、りっぱな牙がぎらりと

ぼそぼそ尻尾はぶおんと払うように一振り

あれ、よくみるとしまった腕さん、古傷だらけ

でも、いや～さっきの音、ワッの はらのむしの 音みたいでして...

衝撃と脱力をひた隠す黒狼獣人さんと、もうしばらく カオンくんさがし歩き しますだ。



ワタシとブランさんとで へんてこあるき が 続いております。

(話を聞いた・つぶつぶ)

- ・カオンくん&ブランさん お二人はふたごのやうなもの らしき
- ・変身や運動はブランさんの方が得意、考えたり じっとしたりは、カオンくんの方が得意
- ・これからしばらくは、眠るほうを逆転して みえる・きこえる世界を探求したい とっ

お話をきくうちに、あらこれは、と 気付きました。

前カオンくんは自分のココロの中にいろいろいる といったた

ココロ世界の中の、ある泡の星の中の、蛇巨人さんの棲む湖の中の、どこかの道の獣人さんの

コロのなかの草原の、いろんなひとびと、いろんないきもの

そのなかに、今までブランさんがいて、ずっといっしょに育ってきたのかも？

そこにワタとゲンマさんとで作った魔法薬が作用して、逆転してしまったり...？

えええ〜っと青くなったら、ルメさん 一度文旦に変身したな と聞かれました。

おや、そういえば旅の間もコロごしに 一緒だったんだねっ

そこで旅や、湖や、下宿づくりや、プレゼントや、学習ダンジョンのときのお話をしました。

なんだか、へっぽこめいどとしてお屋敷で働いていたの、大昔のことみたいですだ。

カオンくんのことを思い切って聞いてみたら、あいつは泥のやうに睡眠中だし、いまは私が戦えるから案ずる事はない といいました。

はじめて同族いがいにしっかり信じられる友も出来たことだしな、ともっ

おわっそんなのワタだってそうですよ！ゲンマさんもそういうお話してたしっ！

...ん？しかし、カオンくんを捜索する必要はもうないし、ダイモさんにも報告するのに帰らないとなっ

でもブランさん、腕組み

コロの精霊ローホさんを恐怖から力の味方に変えるには、傷ついてでも全力でおたのみ飛び込みしないといけないらしき

でも2人とも全力を出すことができず、今のところ成功率はうぐぐつのまま

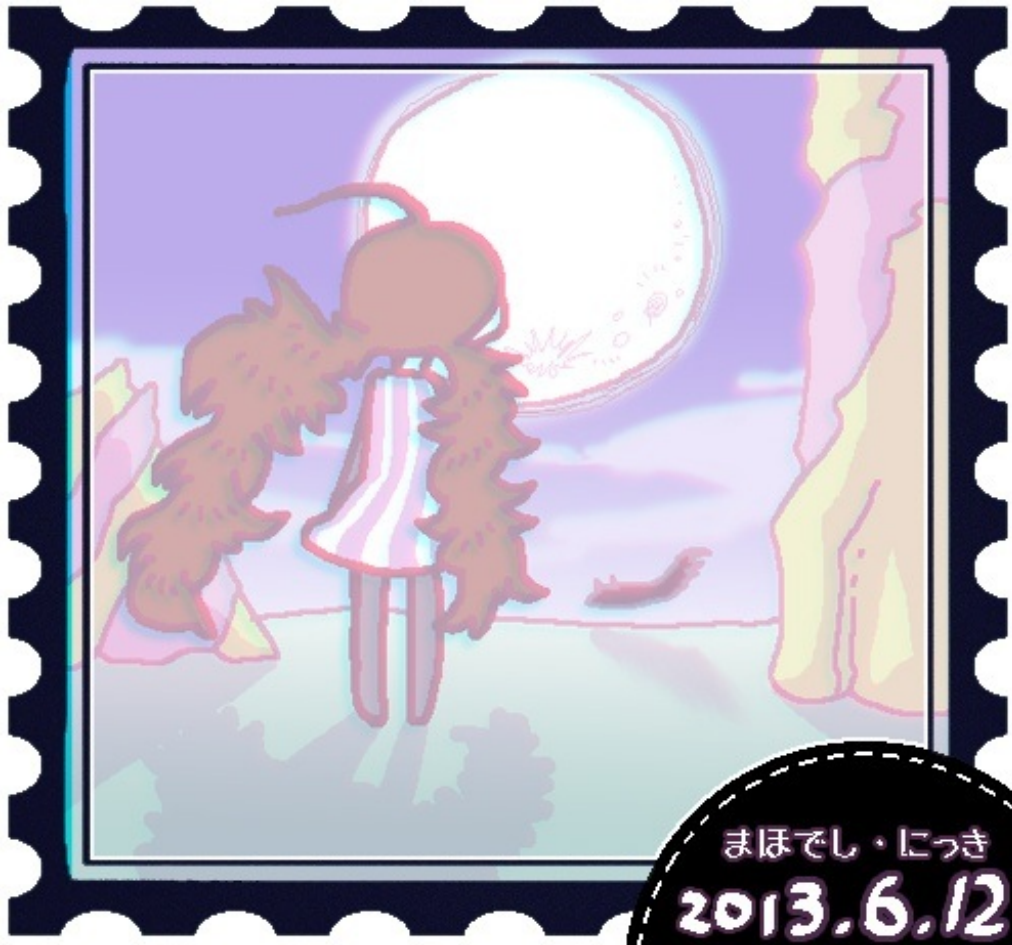
つよくなるため、やさしくなるため

じぶんのたましいに息づく精霊さんにうおりゃあっと／あの～と挑む日々...

その策を もっとあるきつつ、じっくり考えてみたい とのこと

+ワタシのご先祖に獣人はいないか と聞かれました。

どうも普通の人間に対しての気がせんのだが...って、ソレは一体どしたコトかいねっ？



ワツと、ブランさんとで、もったりあるき

ワツは一旦ダイモさんに報告に戻り、ブランさんはもう少し熟考散歩 ということになりました。

お仲間それぞれの背中の中にある そのとき気付かない大事をふるあっぷ も しっぷだねっ

でも、ぶらんさん（であり、カオンくん）、かえってくるかな？

ひとが選ぶぶんだけ にてひのみち なれど...

んん～とか、ふう～むとか、ミヨなため息をもらしておったら、砂舞い上がる、みずかぜ

”この効果 長々とはゆかん

表にいるのがカオンに戻ればそちらに帰るし、他にも理由あらば向かう”

なにかに変身したブランさん、もうずっと みずのさき です。

そうか、カオンくんに戻るということは、黒獣人さん、またずうっとココの草原の うえなんだ

守る、つよく、そのほかに

一度でいいから 世界のにおいをかいで、爪と肉球で歩いて、尻尾も振ってみたかったかも
思いっきり はしりたかったのやも

ほんわか ほろにがで 手は振れるけど うまく笑顔になれない

とてもちいさいころ よくあった

(このいま、もしかしたら ゆめかもしれない)

みたいなきもちと、ファイ&ゆるだねっと静かなじょうねつで見送るココと

そんなあんばいの 湖底の砂の上ですだ。



ほろりすい〜んと、ほうきで下宿まで帰ってきたらっ
なんとしばらく旅のはずのブランさん、ゲンマさん・ダイモさんとお話中？

”そうだ、カオンからの言伝だ そのため来た 伝える
「それは つめとぎ じゃないですか師匠」 以上だ”

”しししかしですに、ホントにカカカオン君、無事なので？”

”まあ、獣人にもいろいろあるからなあ…
はあ〜そうか、つめとぎね ごくろうさん”

ダイモさ〜ん、ゲンマさんも、ただいま帰りました〜っ

といった途端に、ぴえ〜っとゲンマさんワッの影に隠れました。

それをみたブランさん、黒耳をふいっと動かしました。

”伝えた では

カオンはそのうち帰るだろう じゃ”

そそくさと去って行こうとする背中になにか言葉を の途中で、
ちいさな手に止められました。そして、ひそっと

”ルメ あれカオンだな

若い獣人にはあるんだよ 内外の転換とか、コントロールでききれんのが

そこをしっかりと備えるか、怪物って呼ばれるやうになるかのキワなんだな

こればかりは、じぶんで積んでくしかない

まあ、ひょこっと くんくん来たら するっと食べ物やら話やら するーしてみなよ

それもまた だいじだから”

あらら、言い終わったら ダイモ師匠も ほろにが

何かを思い出しているのかな

そしてゲンマさんは、いまだにあおざめてフルフル中

”ごごごみんちゃいっ ワガハイ昔ひつじ型巨大獣人さんに葉っぱだいぶムシャムシャされてからという
ものっ…！”

里にも少しいて可愛がっていたものだけど、そういうのも あるのねっ

一同、いろいろ

でも、いろいろな調子で、あるいてゆきますだ。



獣人・カオンくんが内外ちえんじの 変身期間

わいんど? しっかりの黒おかみさん状態で、周辺を思索ぶらり散歩を しています。

ゲンマさんは、夜トイレに行かなくていいやうに ちょっと規則的になったさうです。

かれの先生・ヒュドールさんは、お変わりなく、ときとして めらんこりっく凍結など

ダイモさんは金属でツツとろ～りなピザを作るのが大分上達されたやうで、うきうきしております。

でも、ちょっとずつ 心配がみえかくれ

ワツはといへば、魔法特訓を続け、小屋程度のものでもうっすら浮遊させられるやうになりました。
。雨風もへっちゃらっ

でも、飛行魔法はうすまでは、まんだまだっ

そして、新習慣がもうひとつ

黒いおおかみさんがふらりと見えたら、いなりずしのかわ（味つき）をほおいとスロー

即座にアツアツの鍋を持ってほおいと走っていくのもタイヘンだし、何かコレがすきな味らしき。

ないときには、くだものとか、昆布とかをスローしております。

本物の狼さんは、かわ&昆布はたべんだろうなあ...でも、どうなのかなっ

最近、姿を見せること だんだん減ってきました。

においをかいだり、湖底の音を聞いたり、走ったり食べたりお話したり しとるんだねっ

だんだん生きて変わっていくところの、そのときずつの 刻々と いまを

おうし、おなかもへってきたし、魔法技術要点メモしてきょうは枝豆ごはんだーっ！



おおかみさん姿で思索散歩中の、ブランさん（で、カオンくん）
獣人さんのすてっぷあっぷのための、だいじな一歩ずつ中らしきです。

足跡はあるけど、すがたは見えなくなっていました。
でも、きりりっというやうな危険信号は魔法技術あんてな にきていません。

内外のｺｺどうしのかけあい、しっかり進んでいるかなっ

ワッも飛行ハウスで旅する魔女になるべく、しまっていくぞい！
そんなこんなで、きょうも朝準備だっ

それにしても、カオンくんとブランさん、ふしぎですなあ

ｺｺ内とお話しとる感覚や変身しているときのかんじ、どんなだろう

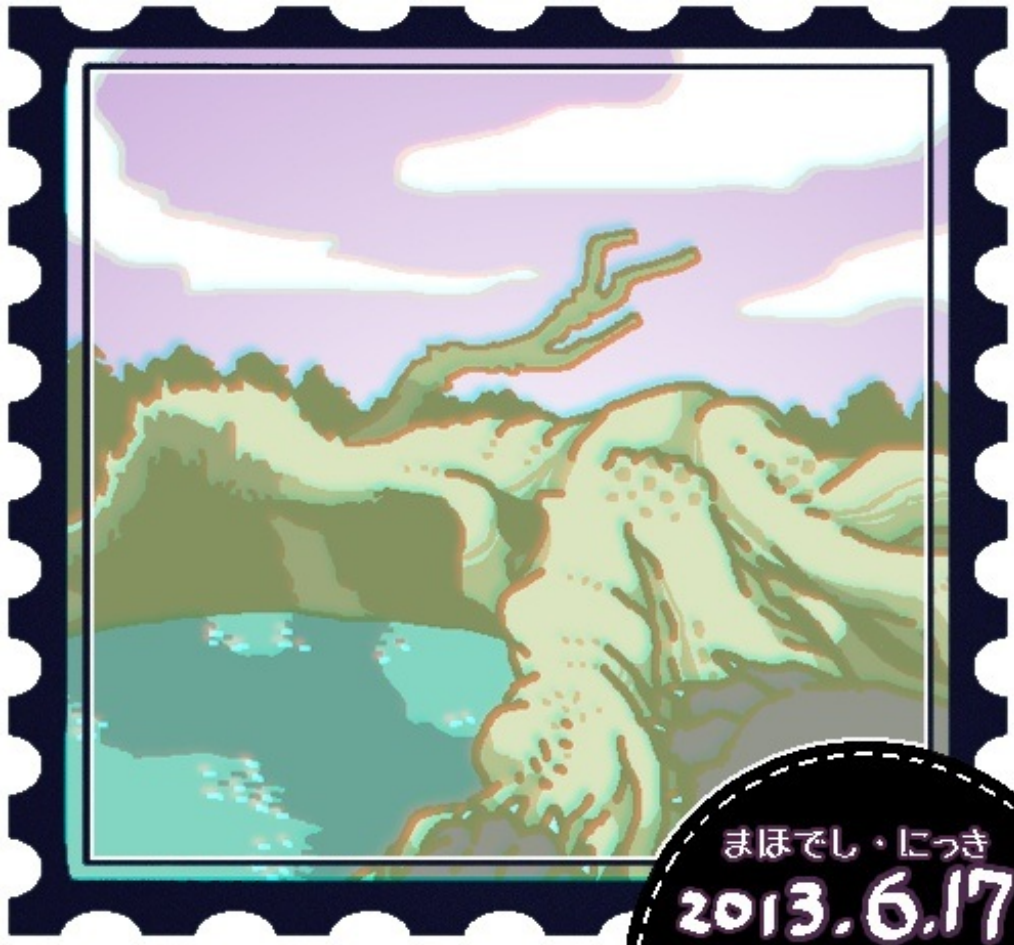
獣人さん、どれくらいの種類がいらっしゃるのかな

魔法使いの里の人、どれくらい知っているかな

白黒獣人くんに度々感知した影の淵のやうなもの、なんだかワタシも知っている気がするの は なんだ
ろう

...なんていろいろ思考こすもすにはてな星を浮かべまくっていたら、左右べつの靴下をはいとる
事に気がつきました。あれま、またひとふしぎ

いやはや、おちゃ飲んでまずは落ち着こうっ



どうもお久しぶりです。

こんなに僕のお話ばかりで、加えてそれがこんなにすろー・てんぽで大丈夫でしょうか...

只今、湖の上の巨大な枯れ木の上にいるやうです。

やうだというのも、僕は今じぶんのココ内部にいて、表で活動しているのはまた違う存在だからです。

黒い草が波となびく、真夜中の草原

それと、今”僕”が歩いている、枯れ木の上からの景色

ぼんやりうかびつつ 視界にうつりつつ 鼓動の音と 呼吸の音と

成長して、獣化のちからを失うきょうだいがいました。

動物の姿から戻らず、それから1度も姿をみていないのも

あるいはさらに色々に変身できるやうになったり、一つの種類の獣化を極めたり

獣人さんがそれぞれ越えるべきコトの中の精霊・ローホさんは、今もそばにいます。

ええっと、ちょっといいですか...と ふんわり握手してみると、吹っ飛ばされる事なくふれられました。

氷のやうな表面に、ぞわっとする何かの記憶

垂れ耳をひたっとくっつけてみますと、いくせんもの動物の鳴き声がしました。

僕らにはほぼわかる、血液のやうに流れる いくせんの言葉の向こうのかけらの数々

わきたつ・せんりつする・じいんとなる・なつかしい・みしりもしないものの 声を聞いていたら、ひとつ 思われてきました。

やっぱりローホさんの守りを得るには、僕とブランさんで 一緒に挑まなくてはいけない

僕の母はいま、強い兄弟たちと一緒に何十もの家族からなる群れを戦って守っています。

傷つけば手当てが必要だし、傷つければ・そして倒せば 次の刺客がやってくる

動物の戦いは基本流血を避けるし、負けたところを見たことが無い母も「疾風なるご母堂」の二ツ名で ちょっと有名です。

でも、いきものには 色々も かぎりもあるので、なんだか気になります。

そのまえに、なんとしてでも しっかりホントウの獣化を備えて、戦い続けなくていいやうにしたい

+母さんに勝てるようになるまで帰ってきちゃあいけないよ　なんて　言われているしア...

そのためのヒントを、ブランはくんと　さがしています。

”お餅たべると力つくんだって！”

とルメさん言ってたけど、そうなるといいんだけど...のび〜んもがもぐっ



魔法をならいはじめのころ、今ではナンともないものが とってもコワかったりしました。

曲がり角とか、る一むの隅とか、大鍋のすいめんとか、森の奥とか、古い看板とか

魔法でみえなかった・きこえなかった・わからなかった ものがあるのがわかったら、
それにじかにタッチしてしまったら、

ここにも、そこにも、あそこにも なんらかの不思議なものが かげをひそめていさうで

”ルメ、いい？

こわがるって、だいじなんだよ
魔法使いの目で せかいの一角が見えたってことさ

さて、まわりみちか・しかと見出すのか

みないのか・むしろ質問しちゃうのか...

どれを選ぶとしたって、根っこは真剣にね

そうすれば、魔法はどんどん しみこんでいくよ

きみなら 不思議で怖いものを どうやって考える？”

のんびり屋でひょうひょうとした兄さんが、そのとき珍しく助言をくれました。
なにか思うところが あったのかなっ

ワタシは、確か不思議なものにいっぱい ききたい と答えました。
人とお話するのは、自分でも笑えて来てしまうほどに しどろもどろMAXなのに

なにかいる、と言われていた大きな木の下に行って、手をぎゅっとしつつ どきばぐ見極めて
眼がたくさんの 紫しましまの山猫さん？に、即興昔話を色々ききました。

巨大なおにさんが山の間からおしり出した話とか、老いのししさんとその影の悲恋物語とか

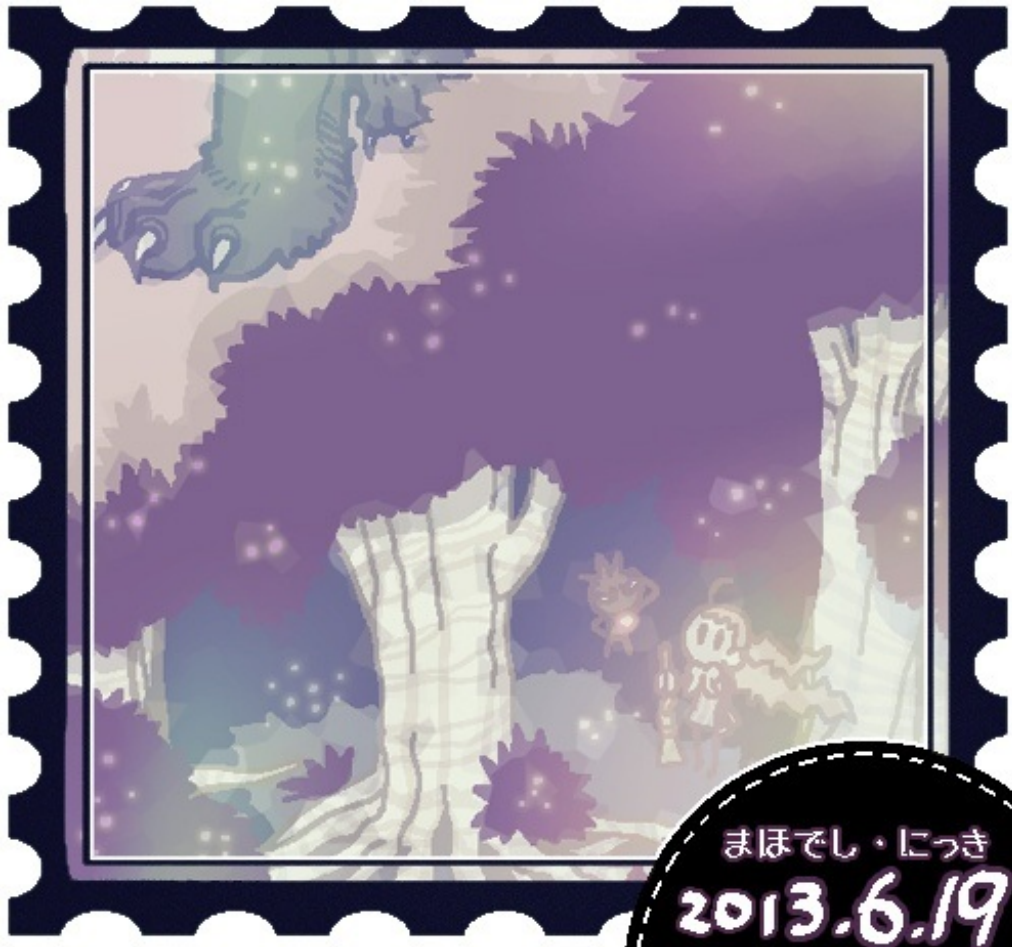
それから、だんだん 不思議なものがコワいだけじゃなくなっていきました。

でも、じぶんの知らない、うごかせないものが 世界にあるのを忘れないのって、だいじ

知らない・ちがう・うごかせない そうだって、それぞれタイヘン・ひろがる・深いしすごい

兄さん、何処にいるにしても、なんかアリガトウッ

カオンくんも、今頃にぴきで ふんばっているかなっ？



学習ダンジョンで、ワッは（今のところは、最大集中すれば数分）ひとの作った物となら お話ができるようになりました。

魔法せいぶつなら少しはわかるのですが、野生動物・植物さんにはたっくさんの言葉があるので
...

でも、動物さんも植物さんも、苦にせずそれぞれの特性や感覚で生きているんだなあ

いま、湖の近くの森に来ています。

静かで、そのやうで 何かの声や音がして、苔や樹木や 湿った土から すっとする香りがして、みずみずしくて、不思議なきのこがあったり、足跡や爪のあとがあったり

たくさんのいきるものの家や穴があるし、古い森には、不思議もたくさん住み着きます。

今日は、感性を磨くために不思議Eノさん見分け&いきものの ちょうどええ巣かんさつしようの日です。

静かに、感性あんてなを張り、いきものやしにもの・不思議Eノのおじゃまを せんやうに

...と、突然ぎゅんっと、すさまじい気？みたいなものが、かみつくやうに飛んできました。

かすめていったし、ながれだま のやうなものかなっ

俺達はこの場合何も出来ないし、こんなに森の奥で決めようと来たのをフィニしたら野暮だ
っと、ワッをひっぱって帰宅のダイモさん

木々の間から少し、古い環状列石のやうなものがチラッと見えました。

おそらく、古代の 何らかの魔法儀式のあと かなっ

だいたい結界というものが こういうところにフッとあったりするけれど
カオンくん、ハイパワー&森のみなはんに迷惑がかからんやうに したかったんだね

うおおいファイツ&ゆるフルでっ！（蟻さんのごはんのやうに担がれつつ）



なにやら、夢をみました。

どこかにある真っ黒い夜の草原

ひゅるひゅるぼうぼうと　みをきるやうな風が吹き　黒い草達は無数のつやの波

どろどろと動く、何かの集合体であるらしき　灰色の巨体のまえに、白黒の　2ひき

はじめは、そろそろと

だんだん、足を踏ん張り　尾を上げて　声も無く　眼をみひらき

どろおんと広がる灰色に、白も黒も　しめしあわせたやうに　飛び込んでいきました。

巨体の腹側にあらわれた　人のせたけの何倍もありげな口

長い牙がでこぼこに突き出し広がり、2ひきを　まるのみにする

景色は一転、めまぐるしく曲がりくねって流れる、赤いくだのなか

のみこまれたもの・そこでできたもの・まよいこんだもの・いろいろと
途中で分かれる管に入っていくもの、途中で食べられるもの、ぶつかってはじけるもの

(どこかでみた あの2ひきず だいじょうぶかな)

ぼんやりと思いつつ、いろんなものに ぶつつかりつつ ワタシもどんぶらこっ

でも、なんとなく わかってきた

灰色さんは 食べてしまおうとして のみこんだのではないらしき

いろんなのがいること いきとる・みえなくなる 動物はきょうぼうもざんにんもぶきにしない
こと その、ぽてんしゃる どうしても とまどう2ひきに みせたかったんだ

”こよ おまえさんは ゆける

こころでしり よびめぐらせ

おのれにそなわるものを わざとし

たちどまり ねむり

取り巻く世界のはるかさを まま感ぜられたならば

かてと かげと しなとなりても われら けものびと ぞ”

夢から醒めても、しばらく その声はひびいていました。



翼や、鱗や、けなみやまなざしが 水越しの不定形のやうに

かわることは ひとつぶひとつぶ いっとういっとう 思い出すこと

ちいさく・おおきく

ながく・みじかく

そらを・だいを かけまわったものたち

いつしか かわって せかいのべつのひと粒に

どちらか じゃ なかった

どれも ぼくの つぶずつだった

そして ぼくも つぶずつなんだ

うみと もりが いちまいの紙になるやうに

みみも つめも きばもまた

めをとじたら／めをひらいたら

かつて森深き山にいきた けもの竜たるローホが みえた

だから

ぼくのなかの 3びきにやどる／内外のたくさんで
やみのなか ゆく

しるしのしっぽは しろくろの2本に

やどるかずぶんの いきものの名とルール

やどるかずぶんの いきものへの変身能力

りょうまえあしで たずさえて

いまはまだ ゆめのなかの まどろみのなか



もしもしょっとなったら、らんになぐ！ということで、只今新コースでらんになぐ中です。

”常に安定した場所で魔法を使えるとは限らんからな...変わる景色をみつつとろ走るのもいい
ただ、ひざ痛には注意するんだぞっ”

ほい1・2ピッピッ！と笛をならしつつリズムをとりつつ、小さなダイモさんは快走コーチっ

水色や白の光がさらさら一っとさしていて、大小の水草がゆらゆら
ざっくぽこ走る後ろを見ると、足跡ごとの上に砂がもぁ〜っと湧き上がっています。

こざかなさんや湖底のまるい・みかづき型・なんがい生き物ももよもよもよもよ

巻貝さんが右の目からおそうじしているから、今日は晴れたり雨だったりの 水の上かなっ

しぜんかんさつんぐしつつ、らんになしつつ、きょうは守りの魔法くんれん

一時的にですが、なにかと／なにかがぶつかりさうになったときに、ポンとはじきます。

師匠がドコカから垂れ下がっておる綱をほいやっと引くと、走るワタシの頭上に物体出現
その物体を、走りつつ次々跳ね返していきます。

じょうろ、でっかいかえるヲ、びーちぼーる、ぴにゃーた、なにやら盾っ

ぐぐっと持つホウキに力をこめ、掛け声と共にはじくたび、砂となって消える物体たち

ようしっと思っていたら、しあげのかなダライが ベっこーんと激突っ
さいわい威力を抑えた魔法製ですが、ぐわんぐわんと めがまわる...

夢の中でも、ワタシは走っていました。

気体だけで出来た惑星 の レプリカの 岩石からなる環っかの道
たったか身軽に足をはこびつつ そばには大きな何かが

わっふわっふ揺れる、おおきな2本の尻尾
ちらっとこちらを振り向いたお顔は、珊瑚石色の目・春の空色の目

すろーもーしょんに テルミンの奏で

すぐ目覚めたし あたまたまもなかったのですが、もすこし見ていたい夢でした。



けさ、カオンくんから おたよりがっ

翼で飛んできたやぶいぬさんが、あいつと丸めた紙を渡してくれました。

『まほでし・お師匠さんがたへ

なんとか、ローホさんのこと できたみたいです。

ブランも僕も きもち だいじょうぶです
しっぽも2ほんに になりました

あるける に なたら かえるます

か～ーオ＝；・～ン』

おたよりの後半に、ねむ字ひろがっとなるカ

あのもっふふわの尻尾が2本になったなんて、うはぁどんかなっ

”獣人カは、動物さんがたとトークン出来るやうになるんですっ僕の植物会話みたいに！”
と、わいわいはしゃぐゲンマさん

ヒュドールさんには、あの耳尻尾くんに来てくれ と自家製ぽーしょんをいただきました。
マリンブルー色のしゅわしゅわ、涼しげな香りだナ

ダイモさんは、しんみょうに腕組み中

”いや...カオンのやつ今動けないかもしれん

生物って脱皮直後とか、孵化直後とか、安全じゃないよなあ”

どよっと一同

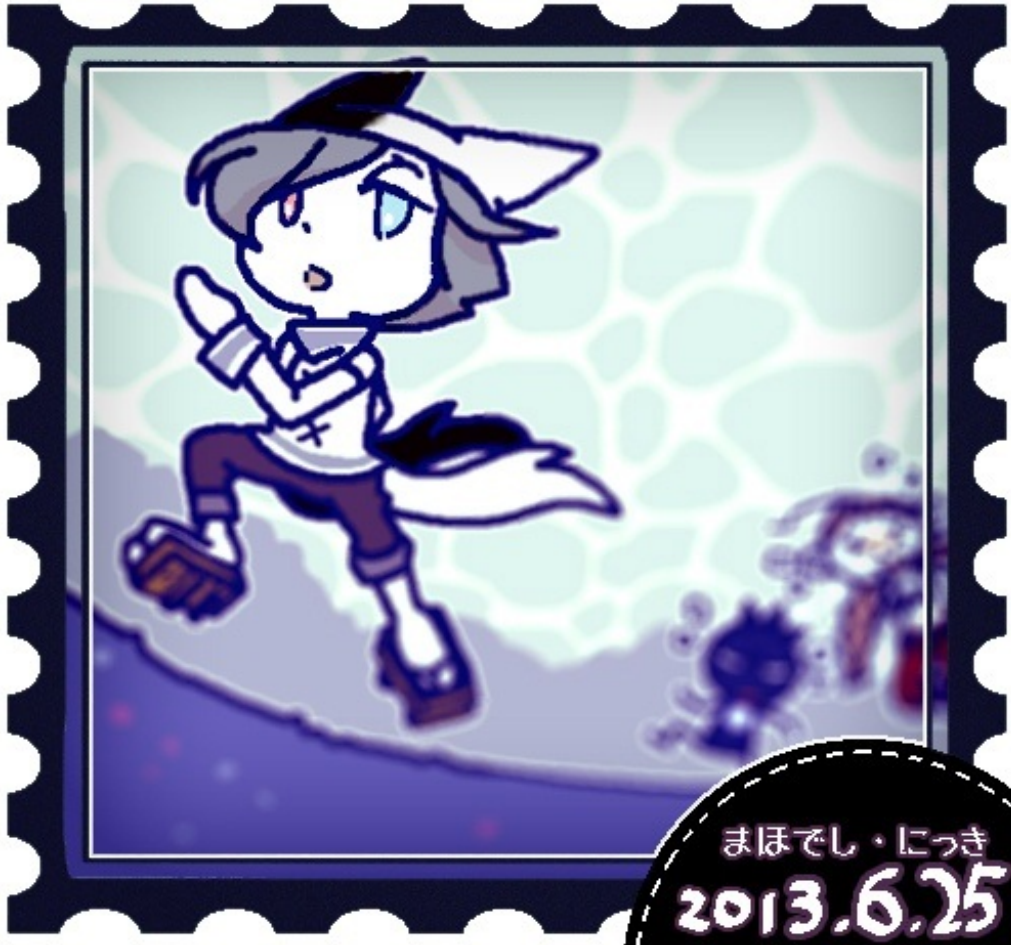
でも あ〜ソレなら大丈夫だよ嬢ちゃんたち、と 空飛ぶやぶいぬさん

”手紙のあんちゃん、うちの巣穴のなかで休んでっから
な〜んか敵ってかんじしなかったし、うちの6つ仔も大喜びでさ”

ほんじゃ〜ね〜と帰るのを、一同お見送り

やぶいぬさんの巣穴にちゃんとカオンくん入ったかなっ、なんだかそこが気になってきたっ

ともあれ、歩ける位に回復し次第、カオンくん帰ってくるらしきっ！
(だいこんとお豆腐買っておかなくてはっ)



朝準備を終え、準備体操をしていたら、下宿からカオンくんが出てきました。
深夜にそろっと、帰巢していたのねっ

”すっかりご挨拶が遅れてしまって...”と、森土産のさくらんぼどっさり！

真っ白だった髪の毛は、ロシアンブルー猫はんのやうなお色に。
尻尾はするすとした白とぼそぼその黒の2本になっています。
耳ぼうしもツートンだっ

もう魔法特訓はじめても、大丈夫なのかい？ときかれて、あ はいっ たぶん...とっ

お茶会兼動物型植物の観察じかんのヒュドール先生とゲンマさんもまじえて、

そんなこんなで、体力&魔法技術かくにん、かいしです。

（走る）

うわぁ、なんか息切れしない...といいつつ、ダントツ速度でゴールイン

（跳ぶ）

かるやかな弧をえがいて、華麗なたかとび

（のぼる）

岩山 流木 なんのその なんてったって天然の手甲鉤+しのびさんのような身体能力っ

（わんりょくなど）

ダイモさんの放ったダイヤより硬いという金属にしっかりとした刻印

ああ、切れなかったなあ って、充分すんごいよっ

変身は一人で行うことにしたので、下宿のかげで れっつ・めたもる

見事に水馬さんに変わっています。

まだまだ慣れが足りないというけれど、なんという再現率！

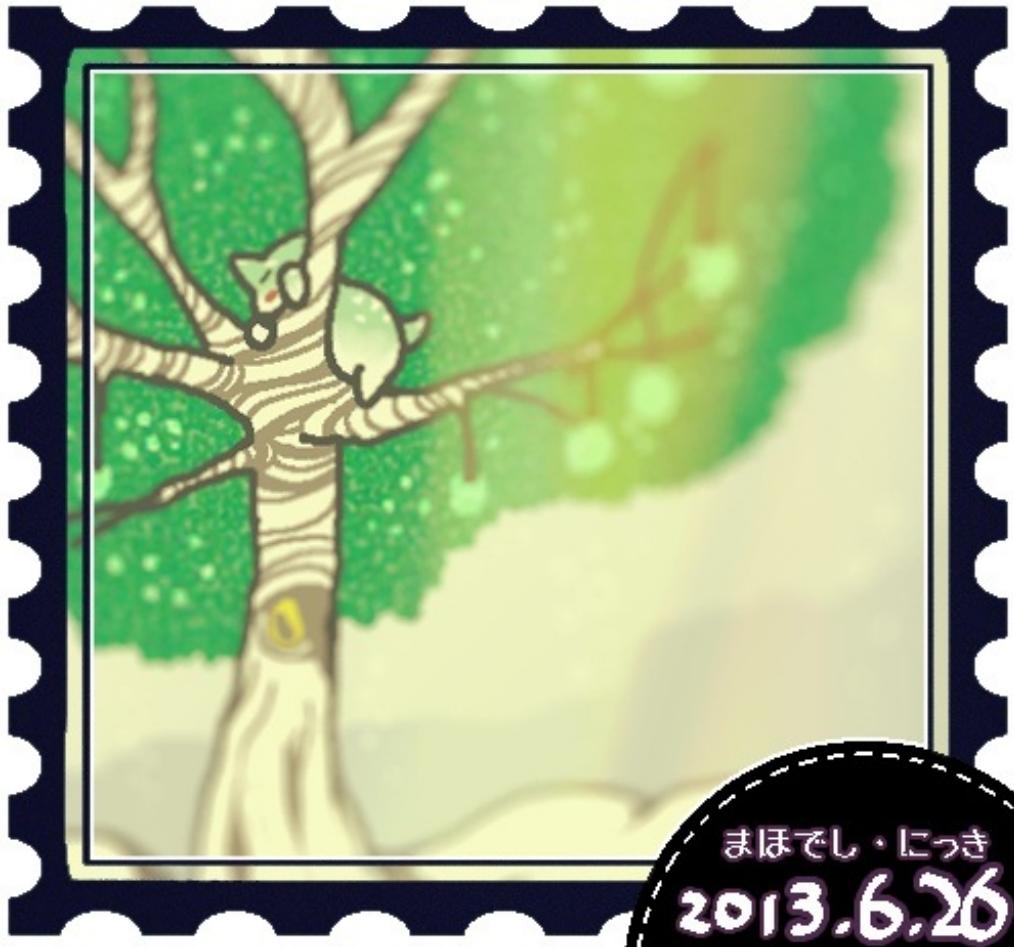
どこからともなく、本物の水馬さんがたがもくもくと やってきました。

前足でトントンしたり、鼻先を近づけたり カオンくんになんかお話しているもよう

肉食・草食をちょうえつして、もはや「そういういきもの」になったのやもっ

おおっ色んなあにまるさんがたとのお話、どんなのかなっ

ハツタツもふんばらんとっ！



湖底にも花が咲いたり、木に似たものがしげっていたりします。

ただ、木の場合は、それに擬態した何かだったり・進化でたまたま姿が似たりの、ほかのもの

陽の光がゆらゆらと ちょうど七色に水面から入ってきて、
カオンくんは尻尾ヘリコプター状態っ

こんな色合いを見ることができるなんて といったまま、藻のかたまりにすっぽりと倒れこみ

そのままゲンキな白あにまるに姿を変え、矢のやうに走り去りました。

もうもうと、軟体動物 みたいな水けむり？が 走ったすじぶん 揺らめいています。

身体能力に加え、うっかり変身力も あがっとるかなっ

きつとコロにやどった　なんかたっくさんのいきものの粒が、

わたしに変身しておくれっいやおいらだっど押しへし　ひしめいとるのねっ

それをブランさんが　けなみなでつつ　なだめてらっさったり...

そんなことを考えながら　でも一所懸命　お〜いっとやっておったら、
イカのやうな木に白い　みにっこどうぶつ　が引っかかっておりました。

赤と青の目、カオンくんだっ

イカの木さん？木のイカさん？

どちらにしろ、もふもふ君につられて　まどろんでおりました。

丁度今日は魔法で変化する色絵の具を作って塗る　という特訓の日だし、

体の模様の変化　学ばせていただきますぞっ



かつて獣人さんがたは、とっても巨大だったさうです。

にんげんでいう、原始人さんがたの 時代

パワフルで、いろんな能力をもっており、何よりでっかい古獣人さんがたの、どしんどしん
その下で、ちいさく・つめもきばも・とぶもおよぐもはしるも 向上中の人々が、うおさお

もしかしたら、ぱくっとたべられたり しとったかもしれない

どこかの 泡の星の中

はじけて つもって、こんどはたたかい

身ひとつに磨き上げたワザを備えた獣人さんがたと、

身ひとつに対抗出来るワザを技術で備えた人々と

いのち もともとのもの あらたなもの 水場 やがては富をかけて
なにが どう たがったのか

どこかの 泡の星の中

その どこかで 旅の仔カオンくんがみたものは

けものびとの でかせぎさんたち まちはずれに ひとつのうちをたてて

私たちは、それぞれ姿がちがう、でも皆ローホを宿すものだとしした者を運ぶそうれつ

”ココよりゃいい所へ行けるさ　そこでやつはハハ°じゃない　全くの牡鹿になってな”

皆で遠吠えをしつつ、光の砂と風に運ばれてゆくのを見守る彼等に　ひそひそと罵詈雑言

ひととくらす　どうぶつとくらす　わからなくて

姿のみ混ざった・力のやりどころのない獣人さんも　出始めていたさうです。

そんな夜に　旅の一座

星飾りの真っ赤なテントにいたのは熊のステルラナと老象のターロー

ごしごしの手としわしわの手で、傷だらけで逃げてきたカオン君を手当てしてくれました。

”ここなら、変身や動物の・ひとの力をめいっぱい出せる　喜ばれるとゲンキになれるわ
団長がもってる　いぐのらんざは、ちょいところまりモンだけどね”

”カオン、せめてけっして忘れぬことだよ

見てきたやうに　いろんなのがいる　本当に　いろいろとね

でもきみこそは、立ち戻れぬ程の淀みに染まらんでおくれ

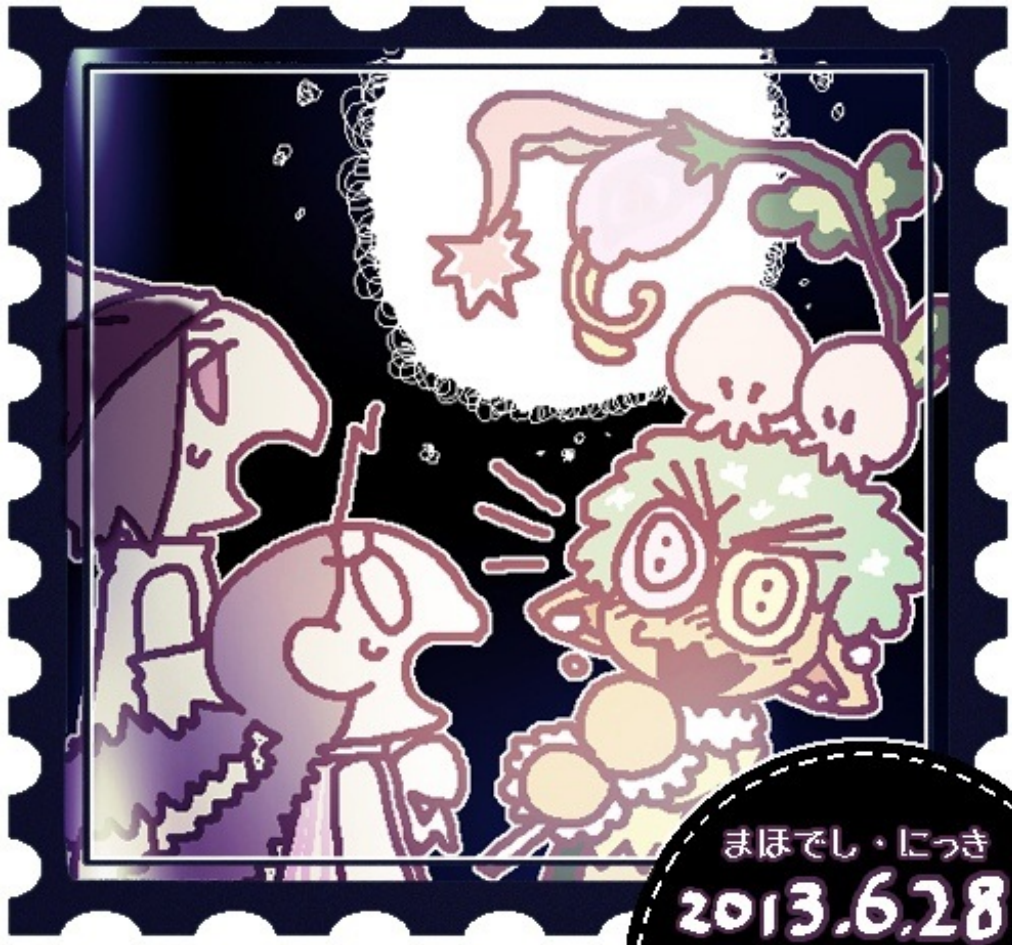
きみの持つ沈黙と開示のゆるがぬたましいが、いつしか千の妄言をも追いやることを
燦然たるきみのローホが　ゆるがぬ守りとなることをいのるよ

もう会うことも　できぬだろうから”

ムチの音 華やかな音楽と元気に踊る光 割れんばかりの拍手の音

動けるようになったカオンくん ひっそりと 舌をかみつつ涙をこらえて また旅にたったさうです。

ううっ 魔法使いにも獣人さんにも、なんだかさちあれっ！の、ばんごはんであります。



”もーにんですに〜っお二方〜っ”

いぬやま・いぬこさん（せいゆうヲ）のやうなお声のゲンマさん、たったか元気に駆けて来ました。

”ワガハイ、やっと独自天然肥料で栽培・開花させたんですにつ
ほらこのお花、獣人ヲはじめいろんなオカタガタがりラックスでける香りを出っするであります〜”

カオンくん・ブランさん両方がりらくすできる方法、ずっと考えてらっさったんだねっ
早速くんくん ありがとう...と、ま〜るまって ゆめのなかへ。

すると、ゲンマさん自身も見たこと無いやうな大あくびで、んじゃワガハイも...と、コテンとっ

こっ、この流れは...

”おいおいどうしたんだよおまえたち、そんな...ぐごごごごっ”
師匠、のびたくん並みの早寝だなあ

”ゲンマよ、よもやその花を栽培したときの独自...ひりょう.....”
お珍しい、ヒュドールさんまでっ

この後、私はん～しょうがない と皆さんに魔法たおるけつつを掛けてほうきの点検をしたり、魚さんの構造を模したハウス模型を魔法組み立てしているうちに、時間差で突如寝入りました。

大小のさかなさんのげんきな、そしてきらぴか水面のずっと下の、涼しい湖底のへんなひとときでした。

(しかしワタシの脳って...いったいっ)

まほでしーにっき
6月のまとめ

まほでしー





Mahodeshi*nikki
Yune Utainu



BRAN

【ブランさん】

- ・ とし ：フルフル白獣人・カオンくんと同じくらい
- ・ じょぶ：カオンくんのココ内で守りやサポート+いろいろらしき
- ・ じゅつ：身体能力・変身能力はブランさんの方がじょうず
- ・ りそう：繊細なカオンくんをココに眠らせ、自分が表に出て守護&謳歌獣人らいふ
- ・ とくぎ：野生の勘、夜間視力、歯が丈夫
- ・ すきなことば：狼は共食いをしないが、人間は人間を生きながらにして丸呑みにする（がるしんさん）

（ごあいさつ）

ざわっ（藪の隙間から）

...わが名はブラン。

カオンは昔から、獣人としては優しすぎる。

故郷や旅で見たものが、今尚影を落としておるのだろうが...

淀みに萎縮しすぎると、うっかり足を踏み外すことにも
その都度、私はココより 叱咤や支えをつづけてきた。

確かに獣人ひとりひとりのココにいる ローホ という精霊は ちと厄介な存在だ。

だが いずれそれへの恐怖を乗り越えねばならんし、乗り越えればかのものは守りにもなる。

最近、その乗り越え方、進み方も様々なのかもしれないと思い始めている。

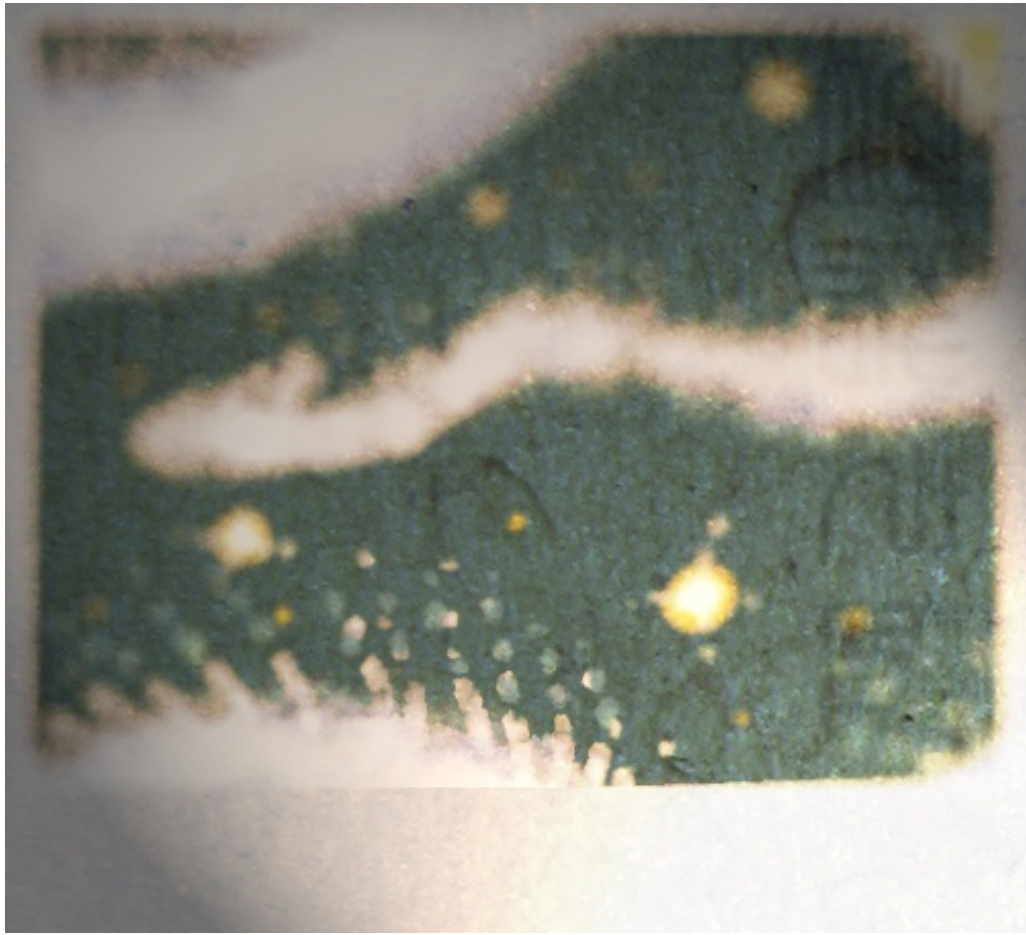
カオンには、カオンの ふさわしい進み方

内外には分かれど あわせうまれたこの半身、ともに進むが道

ただ まぁ、珍種の魔法薬にてやっと表に出られたのだ、せめて存分に筋トレをしてやらんではないかっ

...おっと、私としたことが...

では、またっ（つむじ風を残して去る）



星が崩れて砂となり てんでそこ ここにつもっては
新たな星が うまれるところ

光さす 闇おくそこ その合間のココの 惑星の海に
星ならざりし 竜が棲む

大皿ほどもある鱗の一枚一枚は
音楽 感情 空想 香り
記憶のいろいろ にびに光る

しられず しれつつ ごぼごぼと神話のやうな巨体は
声のない大口をあけ 星をのみ うみなるそらのみずごとのみ

何かを思い出すやうな なにも見ぬやうな 青銅の鏡のやうな丸い目で

優雅な鱗の 遥かなれんめんで 装飾の尾のひとかきで

うまいでることのなかった　いくせんもの奇妙な稚魚らをつれて

詩と謎のかけらを残し まぼろしであったやうに　もう遠い影

名ごとなれど”ホシクイ”そのいぶき

思う奥の水の、空の粒のひとつ　または　幾星霜の　夢のめぐりて



水底の砂の上 真っ青な尻尾 ゆらゆら
水の中でも ふしぎとくっきり ちいさな姿が明瞭に
波の形の光に照らされ ごろんとおなかをそらにして

べろでおそうじ そのあと くああと おおあくび
青いこいぬは 星のちらちら光る目で 魚の音を 聞いている

浜辺 足音 ひとりぶん
わっと思って 飛び起きて
わあい遊ぼうと はしゃいで走る

ひとりの人も 青いけど まるくてげんきな仔犬みて
ようしと走る 転げる 波打ち際

走るうちに 足元よろり あたまもぼんやり
そこでかすかに思い出す

うみいぬ そのまなざし

海あそびで帰らなかった ころたちの かけらのかたまり

はからぬながら 似た者を水底へと引きずり込むと

からがら去る者 見送るもかなし うっかりかけらが 増えるもかなし

わおんと 誰でもない誰かをひと呼びしてみて

ひょひょひょ と尻尾も振ってみて

ぴちゃぴちゃ帰る水の底

うつぼのおうちで まるくなる



あけと よいの はざまのじかん
いきるものが 巣穴や枝で ねむるとき

ゆらり もっくらと うかびあがるものがある

うずまきのからだは透けていて
中心には大きな眼 ひょろりと伸びるは なき風になびく尾

ぬけでたしたには うごかぬからだ

やがていたちや虫や沢蟹やいわなやかえるや
ばくてりあたちが のこさずたべて

いきぬくかてと するだらふ

うずまくもの まどろむやうに または名残惜しげに
とおくへ とおくへ ながされていく

そうしてそらには 似たものどうしの
何千何万の すきずきな微光の群れ

これからどこへいこうか
なにに、ならんか
おもいでばなしか
呼んでいるのか

ぴりぴり しゅわしゅわ はなしをしている

とむらうものなき けなみから
覚え語るものなき うろこから

はか なき はねからなる

うずまく眼たちもまた すいすい ころころと わくわくの童心

かげ たち そのまなざし

生きて動くココの世界を彩る 小さなおもかげの星たち、種たち



もやのかかる 岩の道

所々の緑 這うように広がり ちいさな白い花なびく

白といえば もうひとつ

綿毛そのもののやうな尾と柔らかな垂れ耳をした ちいさなけものの仔

けものといっても、なにかは知れない

なにせこのこは 2足であるく

手ではつかみ もぐもぐたべて またすすむ

山頂の遺跡 桜の城跡 雲ぬける台地 密林の島

月下の野 雪深い農道 路地の奥に けもの道

どこでもゆくので どこかでいきあう

しかしどこにもとどまらず おだやかに手をふって こみあげるほどさわやかに かけていく

もうなれぬ おとなに あこがれて ゆくすがたが かさなって 手はとどかず でも暖かい

てん その まなざし

とっところ旅して 出会う先にきらめきのかけら残し行く わらびがみとも みにっこおばけとも



かつてはちいさな池に棲む　ちいさなはさみの　いきものが

いのししやかえるから逃れ　川鳥たちの足や嘴を抜け出し
藻を食べ　むしを食べ　石をたべ　朽ちた小屋を食べて

月光もあたらぬ溪流の岩影に隠れぬほどに　大きくなった

ひとまず　岩に登って　動きを止める

つきかけの狭間で　水びかりする黒い眼と　浸した石版のやうな背中

ふるきずは脱皮で消えていくなれど　ふるきずの記憶は
しかくいからだの　しかくいどこかの　箱の中

ごごご　がしゃん　と　鎧武者のやうな音をまぼろしの靄に響かせ
時々止まりつつ　おやまを登る

眼をよくよく伸ばして、見渡す

うまれたときにはもういなかった　ものたちや
とりやけもののいのちになったものたちが

見えるか　どうか

立つのがちょっとたいへんな　おやまのうえからは
白くほよほよとした川と　連なるたくさんのせなかか、あたまか

そしてそのむこうに　みえた

闇にうかぶくっきりとした白い月から放たれる光をうけた　なみ　なみ
どこまでも

そらのむこうまで

思わずはさみをわぁっとあげて　たえにたえた足達を総動員し　駆け下りる

木々はざわざわ　風はごうごう　ちらちら　あまり見えなくなった星みな　流れ星

きらんきらんとマブシイ夜の街をぽ～んと飛び越え　なみなみにじゃぶうんと着地した

しゅわしゅわいう　泡いっぱい　眼がからい　ちょっと水がぬるい　そんな水が　いっぱい

わいわいざばざば遊ぶ　お月さんの散歩の間

こざかなと、貝殻と　あきかんと

こちらもお散歩中のおふたりさんだけ　それをみた　やうだった

みかげぼう　その　いぶき

一番のちいさいはさみだが 一番足が速かった こが こんなにでっかく なったとさ

まほでし・につき ③

<http://p.booklog.jp/book/73607>

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73607>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73607>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

※ 日曜日にupし始めました「ココロびと ふえすたむ2」は、年末辺りに個別のお話としてまとめますだっ